

The JIKEI



2019 / Summer



樋口一成 ライプチヒ大学時代

に現在の附属病院の建築がある。建築予算六億五千万円。三億五千万円を銀行から借り入れ、残りの二億円は学債を発行し、自らも同事業を推進する建築委員長に就任し、学債の募集を積極的に呼びかけた。その呼びかけに大学関係者はもちろん、同窓生や父兄が応えた結果、昭和三十七年（一九六二）十月二日には吉田茂元首相をはじめ、内外の名士が参列するなか、盛大に落成式が催された。この時、本院の正式名を「東京慈恵会医科大学附属病院」、通称「慈恵大学病院」と改め、これにより「東京病院」という名称がなくなることになった。

樋口一成

学祖の外孫にあたる樋口一成は慈恵医科大学を卒業し、独へ留学後、本学産婦人科教室に入局。昭和二十六年（一九五二）六月に大学附属東京病院長に就任し、昭和三十三年（一九五八）には五十四歳という異例の若さで、学長、さらには学校法人慈恵大学理事長となった。樋口の功績

2 巻頭言

学祖の想いを受け継ぎ
看護学専攻博士後期課程が本年4月に開設
学校法人慈恵大学 理事長 栗原 敏



Feature

3 特集 座談会

院内から地域社会へ
新しい看護医療のカタチ



Ongoing

7 教育

医療マネジメント講座初年度を振り返って
学校法人慈恵大学理事 医療マネジメント講座運営委員長 浅野 晃司



9 研究

再生腎臓を透析患者に届ける産官学協力体制の構築
腎臓・高血圧内科 教授 横尾 隆



11 研究

上皇陛下とシーラカンス
解剖学講座 教授 岡部 正隆



13 診察

性感染症の今後の課題について
葛飾医療センター泌尿器科 教授 清田 浩



Column

15

新任講座担当教授／新任附属病院長／新任医学長 紹介

New Organization

17 新たな講座の紹介

臨床薬理学講座 臨床薬理学講座 教授 志賀 剛

18 新たな組織の紹介

分子遺伝学研究部 分子遺伝学研究部 教授 玉利 真由美

19 News Flash

〈慈恵イベント〉2019.1～2019.6 / 2019年 主な行事予定表
1月 新年挨拶交歓会 / 2018年度退任記念講義・パーティー / オープンサイエンスセミナー
2月 第1264回成医会例会
3月 第94回医学科・第24回看護学科卒業式 / 慈恵看護専門学校卒業式
4月 2019年度医学部入学式 / 新入職員就任式
6月 学祖・高木兼寛先生生誕170年記念講演会の開催

Nursing

24

慈恵看護教育の‘いま’
慈恵看護専門学校 副校長 上間 ゆき子



25 Notice

- 大学広報(行事 / 公示 / 学事 / 訃報 / 東京慈恵会公報) ▪ 補助金・助成金
- 財務報告 ▪ 生涯学習・公開セミナー等 ▪ 寄付のお願い
- ガバナンス(行動憲章 / 行動規範) ▪ 医療連携窓口のご紹介

学祖の想いを受け継ぎ 看護学専攻博士後期課程が 本年4月に開設



学校法人慈恵大学
理事長 栗原 敏

学祖・高木兼寛先生は、1849年9月15日、現在の宮崎県高岡町にお生まれになりました。今年が高木兼寛先生、生誕170年の年にあたります。宮崎県高岡町では、高木兼寛顕彰会が中心となって、令和元年9月7、8日、高木兼寛先生生誕170記念行事が行われ、本学からも代表者が出席する予定です。

高木先生は幼少の頃から勉学に熱心で、石神良策という方の支援を得て鹿児島藩立医学校で、西欧の医学を学ぶ機会を得ました。高木先生は藩立医学校で、アイルランド出身の医師・ウィリアム・ウィリスに出会い、英国医学のすばらしさに感嘆しました。ウィリスの勧めで海軍に入り英国セント・トーマス病院医学校に留学し、5年間の留学生生活を終え1880年に帰国しました。その後の活躍は目覚ましく、医師を育成する成医会講習所を1881年に、翌年には貧しい人も医療を受けられるように有志共立東京病院を開院、1885年には看護婦教育所を開設しました。その間、脚気の原因が栄養の偏りであることに気づき、海軍兵士の兵食を蛋白質の多い食事に改善して、海軍から脚気を駆逐しました。この研究は本邦で最初の大規模疫学研究とされており、海外でも高い評価を得ています。先生は晩年、国民の健康と病気の予防を願い、数多くの講演をされました。住居環境、食事に加えて、体を動かすことの重要性を説き、講演会では自ら“船漕ぎ体操”をやってみせたといわれています。

高木兼寛先生生誕170年を記念して、平昌オリンピック、スピードスケート女子500mで金メダルに輝いた小平奈緒選手と、コーチの結城匡啓教授をお招きして、

2019年6月4日、講演会を開催しました。オリンピックを目指して12年間、食事の献立を自分で考え自炊し、基礎体力作りに励み、努力してきた軌跡を伺い、会場は深い感動に包まれました。勝つことが目的ではなく、自分の高みを目指すことこそが肝要だという結城コーチの言葉は、聴衆の心に響きました。お二人の講演は高木兼寛先生生誕170年を記念するのにふさわしいものでした。

高木先生の業績で忘れてならないのは、看護婦の育成です。より良い医療の実践には、医師と共に働く看護婦が必要と考えました。当時の名流夫人が集う夫人慈善会が日本で最初のバザーを開催し、その収益で看護婦教育所が開設されました。本年4月には看護学専攻博士後期課程(大学院)が開設され、本学の看護教育・研究の体制が整いました。看護学科は看護の力で地域住民の健康を支えたいと考え、地域連携看護学実践研究センター(Jikei Academic Nursing Practice Center for the Community, JANPセンター)を立ち上げ、大学院看護学専攻とも協力して地域住民を支える活動を始めることになりました。地域住民、自治体、保健・医療・福祉機関と協力して、看護の視点で住民を支える活動は、文部科学省が進めようとしている、私立大学等改革総合支援事業としてふさわしい取り組みで、今後の発展が期待されます。JANPセンターと、第三病院、医学科国領校、第三看護専門学校との連携が始まっており、粕江、調布地区の住民の健康を支え、住民に生きる力を与えることができる知の拠点となることでしょう。本号の座談会でこのセンターが取り上げられ、抱負が語られています。今後の活躍を大いに期待しています。





東京慈恵会医科大学
医学部看護学科長
北 素子



東京慈恵会医科大学
JANPセンター長
佐藤 紀子



東京慈恵会医科大学附属
第三病院長
中村 敬



慈恵大学
広報委員会委員長
穎川 晋(司会)

特集
座談会

院内から地域社会へ 新しい看護医療のカタチ



JANP Center 東京慈恵会医科大学
地域連携看護学実践研究センター
Jikei Academic Nursing Practice Center for the Community

他国に類を見ないスピードで少子高齢化する日本。

厚労省の保健医療政策として地域包括ケアシステムの構築が推進されている。

本学でも、国領キャンパスに「地域住民の健康と生きる力を看護の力で支える」ことを目的とした地域連携看護学実践研究センター（JANPセンター）を2018年4月に設立し、今年3月から本格的に活動を開始。同センターの設立趣旨や背景、また今後の展望など、関係諸氏が思いを語った。

JANPセンターの原型は 看護教育研究環境の理想から

穎川 地域医療連携が国家的な課題となっている中で、本学には地域連携看護学実践研究センター（JANPセンター：Jikei Academic Nursing Practice Center for the Community）が設立されました。その経緯について教えてください。

北 文科省の医学教育課が2014年度に公募した「課題解決型高度医療人材養成プログラム」への応募プログラムがJANPセンター構想の端緒でした。公募テーマとして「健康長寿社会の実現に寄与できる医療人材養成のための教育プログラム」が掲げられ、取り組み課題の1つだった「地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成」部門に、本学の看護科としてプログラムを開発して、応募しました。

医学部看護学科が中心となり、附属4病院の看護部長、大学院の教職員と議論を重ね、都市型地域医療連携を担う看

護実践者の継続的養成プログラムを申請しました。結果は残念ながら不採択でした。

しかし、その翌年の2015年度から「それぞれの部署でできることから実践していこう」という方針の下、看護学科では地域医療連携能力の強化型カリキュラムを構築したほか、大学院では在宅看護の専門看護師（CNS: Certified Nurse Specialist）の教育課程を新設しました。

そんな中、一昨年に、松藤千弥学長から「国領キャンパスの将来的な再整備を視野に入れた上で、看護学科が看護学専攻の大学院と一体的に教育を進めたい。そのために、理想的な教育と研究環境の構想をまとめてほしい」との諮問がありました。

これを受けて「国領看護未来構想会議」を結成し、1年かけて構想を練り、答申書に連ねた要綱のうち1つが、文科省に申請した人材育成のプログラムを継承するJANPセンター構想につながっています。

JANPセンターには、地域への貢献だけでなく、学部生や大学院生の教育の場としての機能を併せ持ち、大学や大学院の教員が得意とする知識や技能を反映した活動を通して、教員の実践力の育成にもつなげることができる施設です。センターの名称にある「実践研究」という言葉には、そうした願いが込められています。

住民、行政、医療福祉関係者の JANPセンターへの期待

穎川 JANPセンターの設立に対して、地域の方々の反応など、なにか手応えはありましたか。

佐藤 私が本学の教職に就いたのは昨年からです。この約1年間の準備段階で、既に想定を上回る期待が寄せられていると感じました。

JANPセンターでは3つの事業を運営しています。地域住民の健康生活を応援する「みんなの保健室」、地域住民や医療福祉職者のニーズに応える情報の発信・共有を行う「みんなのまなび場」、地域のボランティア活動や患者会などを支援する「みんなの活動」です。

各事業それぞれに、地域住民の方々、調布市、狛江市の行政の方々、医師会や福祉関連機関などから多くの問い合わせやご提案等をいただいています。つい先日、調布市の看護師さんの団体のご訪問をお受けしました。看護の力で地域貢献したいというお志を伺い、何か一緒にできることがないか模索をしています。

戦後、看護の実践は一貫して病院内でなされるものでした。その意味で地域に出て行くということ自体が非常にチャレンジなことですが、その実、看護が本来ずっと望んできたことでもあります。

看護が地域住民をどう支えられるのか、日本の看護界全体の大きな課題となっている今、「地域ケア」がどれだけ公益性があるのか、人々のお役に立てるのかということ、私たち

がこれから実証していかなければいけません。まさにそういう時節にJANPセンター長を拝命し、身が引き締まる思いです。

これから、センター設立にこめられた教職員側の思いと、地域の方々との思いをつなぎながら、第三病院の看護師の方もぜひ一緒に参画してもらい、センター事業を運営していきたいと考えています。

穎川 第三病院はJANPセンターに隣接しているわけですが、どのように融合していくのかなど、第三病院としてのビジョンを教えてください。

中村 第三病院は大学附属病院であるだけでなく地域の基幹病院です。診療を中心に据えながらも、地域住民の健康推進に寄与していくべき医療機関であると認識しています。つまり、目指す方向性はJANPセンターと一緒にです。

近い将来に全面リニューアルが予定されていますが、新しい病院の基本理念として「シームレスな医療をもとに地域社会に貢献する、機動性と機能性の高い基幹病院」を掲げています。このコンセプトのもと、計画されているのが健康推進センター（仮称）の新設です。

この健康推進センター（仮称）とJANPセンターが連携しながら、地域住民の方々の健康と予防医療に取り組むことができれば、非常に機動的な地域貢献を実現できるのではないのでしょうか。第三病院のスタッフとも連携できれば、より緊密な地域包括ケアシステムを構築できるはずですよ。

隣接病院と地域の大学と連携し、 唯一無二の地域医療拠点を目指す

穎川 「地域包括ケアの推進」という国の方針に対応して、各地で様々な取り組みが行われていると思いますが、その中でJANPセンターの取り組みは、どのような位置づけになるのでしょうか。

佐藤 既に米国では、看護学科が設置されている大学で同様の取り組みが広がっていますが、国内ではJANPセンターが非常に先駆的な例の1つと言えらると思います。

北 取り組み開始の早さという点では国内にも先行する施設が他にあります。JANPセンターのユニークな点として第三病院の存在を挙げることができます。未病の方だけでなく、病や障害とともに生きる地域住民を支えていくにあたり、連携病院が隣接しているのは大きなメリットであり、他にはない特徴です。

また、10年ほど前から調布市近隣の8つの大学で「相互友好協力協定」を締結して大学プラットフォームを構築しており、本学も参画しています。実際に、「みんなの活動」の事業としての学生や教員のボランティア活動を学問的に推進するために、連携大学の中で福祉に強いルーテル学院大学にご協力いただき、「ボランティア論」と「サービスマニエール」という2つの選択科目を看護学科のカリキュラムに落とし込み、新設することができました。

看護学科に限らない複数の大学と協力、連携できるのも、他には例がないのではないのでしょうか。

地域貢献と教育と実践研究 広がるJANPセンターの可能性

颯川 JANPセンターの3つの事業について、もう少し具体的に



キックオフミーティング 2019.03

センターの3つの事業内容

JANP みんなの保健室

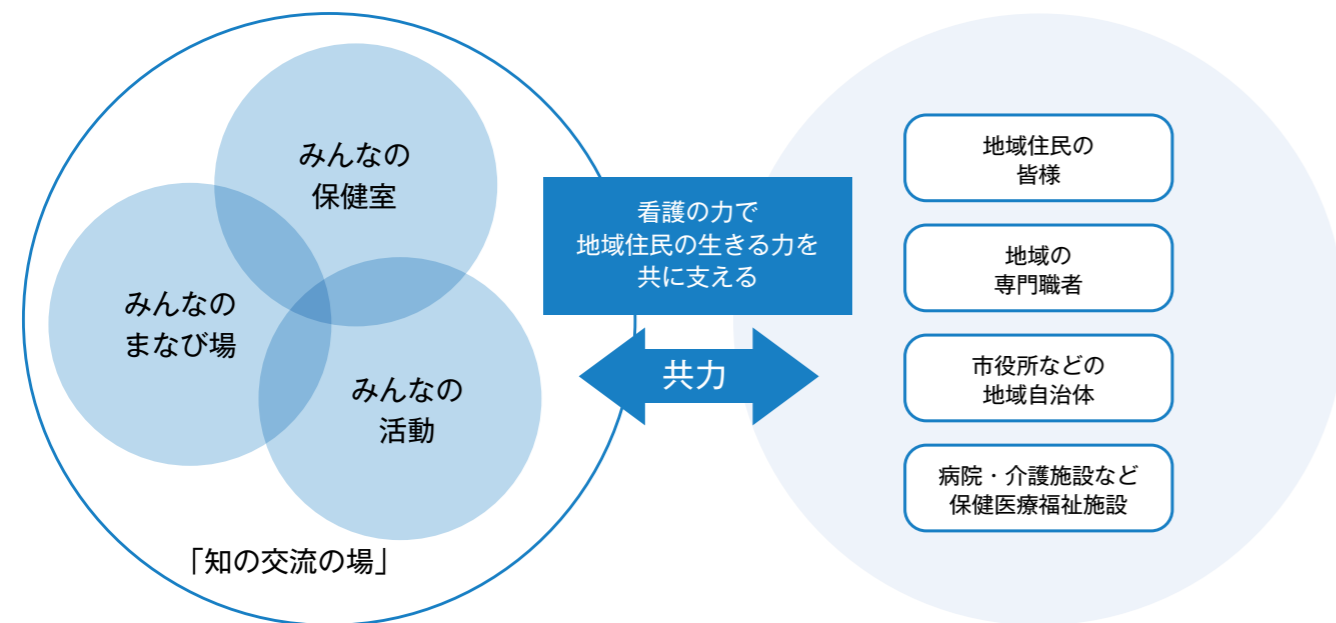
体力測定や健康相談など、町の身近な保健室として地域住民の健康生活を応援します。

JANP みんなのまなび場

地域の住民や保健医療福祉職者のニーズに応える情報を発信、共有します。

JANP みんなの活動

地域のボランティア活動や患者会などを支援し、住民どうしのつながりを推進します。



に教えてください。

佐藤 「みんなの保健室」では、これまで看護学科の公開講座として「町の保健室」活動を行ってきました。これからも集合住宅の一棟や、商工会議所主催のお祭りなどの出店で、学生とともに保健室活動を行っていく予定です。

北 地域の方々からとても喜ばれ、学生にとっても関心のある活動のようです。参加する学生たちも生き生きと活動しています。

中村 現在は臨時の出張所のような形ですが、第三病院の健康推進センター（仮称）が出来た暁には、同じ建物の中に「みんなの保健室」を常設して、気軽に地域住民の方が健康相談に訪れられるような相談スペースのようになると思っています。

佐藤 「みんなのまなび場」の活動としては、今年は公開講座を予定しています。今後、教員が持つ力と地域住民の方々のニーズの両方の観点から何ができるのかを、アンケートなどで調査していく予定です。

北 「みんなのまなび場」は、地域の住民の方々だけでなく、様々な医療福祉施設のスタッフの方の学び直しの機会も作っていきます。例えば、小さな訪問看護ステーションなどで働く方々が、働きながら学び直しをしたくても、現実的にはなかなか難しい。



Motoko Kita



Noriko Sato



Kei Nakamura



Shin Egawa

そういう地域のニーズを掘り起こす調査も行っています。

佐藤 地域にいる、様々な事情で現場を離れてしまった潜在看護師の方に再教育プログラムを提供した上で、1人ひとりのニーズに合った保健医療福祉施設で働くサポートも行いたいですね。

北 そうした動きは「みんなの活動」にもつながります。現在は学生と教員のボランティア活動を中心とした事業ですが、将来的には地域住民の方による医療ボランティアの育成や、大学協力の下での教育ボランティアの育成を行うほか、さらに一定のまなびを積んだ方の活動を支援していくような部門に移行させていく構想もあります。

佐藤 2019年度からは実際に事業を運営する中で、3部門を横につなげる組織の必要性に気が付き、新たに2つのグループを立ち上げました。ニーズとリソースの棚卸をしてマッチングさせる「ニーズ・リソース・マッチンググループ」と活動を広く知らせていくための「広報担当グループ」です。

颯川 非常に興味深い構想なのですが、マンパワー的な課題はありませんか。

北 そもそも大学の教員は、教育と研究と学科の組織運営という3つの役割を担っています。この上センターの活動が加わることへの負担は予想されますが、だからこそ、センターでの活動は、本来自分たちがやりたかった活動とマッチングさせていくことが大切だと思います。活動を通して、自分たちの研究や教育、実践力につながるような活動ができるフィールドにしていきたいと考えています。

活動を続けるにはマンパワーと資金が必ず課題となります。現時点ではボランティアベースで運営していますが、いずれ良い循環の中で活動を継続していけるように、行政の力や知恵を借りながら考えていきます。

病院看護でも必要となる 地域医療連携能力

颯川 今後のJANPセンターについての展望を教えてください。

佐藤 看護学科の教員は、どうしても病院内での看護師の役割分担にとらわれてしまっている面があるのではないかと感じ

ています。その意味でも、JANPセンターの活動に教員が参画していくことで、教員自身にとっても大きな学びの機会になるのではないかと期待しています。

これからの慈恵の若い教員たちは、JANPセンターで地域連携の力をつけて、さらなる幅広い視野を持った教員として成長して欲しいと思います。

北 長年、看護学科の基礎教育を担当し、学部教育という観点から病院看護の人材育成に携わってきました。しかしこれからは、病院看護の中にも地域医療連携能力を備えた実践者が求められるようになっていきます。

これからの慈恵の学生たちには、医療を支えるためにしっかり力をつけて、必要とされる人材になって卒業して欲しい。そう考えると、今後ますます、教育現場におけるJANPセンターの存在感が大きくなっていくのではないのでしょうか。

中村 地域住民が健康活動を通して、主体的に自分の健康を管理していくことは大変素晴らしいことですが、転じて「不健康は自己責任」という排除の風潮に陥らないような配慮も、忘れてはならないと思います。

そのためには、心身ともに健全な人たちだけでなく、病気や障害を抱えている人たちがより健康的に生活していけるようにするために具体的な施策を講じる必要があります。看護学科や病院、行政、地域の様々な医療機関と連携していきながら、「街づくり」につながるような大きな方針を打ち立てる必要があると考えています。

こうした地域連携医療の広がりは、医師の教育にも重要な影響力を持ちます。医師はどうしても目の前の病気の治療にとらわれ視野狭窄に陥りがちです。これからの医師は、患者さんが病から回復し、地域社会に戻り、日常生活を送っていく段階にまで視野を広げて行く必要があります。

看護学科だけでなく、全学を挙げて新しい医療の在り方について真摯に考え、実践していきたいですね。

颯川 まだ生まれたばかりのJANPセンターですが、二次元の設計図が、三次元の立体へと積み上がっていくような、大きな可能性が感じられます。5年後、10年後と今後の発展を期待しています。

01 Ongoing 教育

学校法人慈恵大学理事
医療マネジメント講座運営委員長 浅野晃司



医療マネジメント講座初年度を振り返って

1 講座開講の背景

昨今の医療費抑制政策や消費税等の影響により、医学部を有する大学の財政状況は今までに厳しさを増してきている。現在、日本私立医科大学協会に加盟している大学は29校あるが、そのうち5校は2017年度決算において赤字を計上している。加盟大学の中でも慈恵大学のような単科の医科大学の場合は、法人収入の概ね8~9割を病院収入に依存していることから、大学存続のためには附属病院の経営基盤安定化が不可欠と言える。

一方、病院のマネジメントは制度の変化や医療技術の

進歩、患者ニーズの変化等によって多くの知識とスキルを求められるようになってきており、病院に勤務する職員は職種を問わず、病院経営に関する基礎知識を学ぶ必要がある。最近では医療従事者が経営学修士(MBA)を取得するケースも増えてきているが、仕事との両立が難しく、学費も大きな負担となる。

以上のような背景から、学内に1年間かけてマネジメントを学ぶ講座を開講することとした。



講義の様子

2 講座の概要

講義科目は、「医療政策」、「医療の質」、「医療関連法規と医の倫理」、「建築・設備」、「財務会計・管理会計」、「経営戦略論」、「人的資源と人材開発」の7系統で構成されており、全22コマ(1コマ90分)から成る。

講義は8月を除き、原則として第2・第4月曜日の午後6時から西新橋校にて行う。受講者の定員は60名で応募資格は、(1)職級レベルが4等級から7等級で年齢50歳未満の常用職員、(2)講師以上の職位で年齢50歳未満の教員・医師のいずれかに該当する教職員とした。

受講者の修了要件は(1)全22コマの講義のうち18コ

マ以上受講した者、(2)年度末に実施する修了試験に合格した者、(3)委員会で指定した学会に年1回以上参加し、報告書を提出した者、の3要件すべてを満たすこととし、修了者には修了証を発行する。

受講料は無料で、学会参加費ならびに西新橋までの交通費も大学負担とした。

また、すべての講義を録画し、欠席者にはDVDを貸し出すことで補習できる環境を担保している。

3 2018年度(初年度)のまとめ

受講者の機関別内訳は、西新橋27名、葛飾14名、第三10名、柏9名で、職種別にみると事務職25名、診療放射線技師8名、看護師6名、医師5名、臨床検査技師5名、臨床工学技士4名、栄養士3名、理学療法士2名、薬剤

師1名、研究技術員1名と多様な職種が参加した。また、年齢層は20歳代1名、30歳代27名、40歳代32名であった。

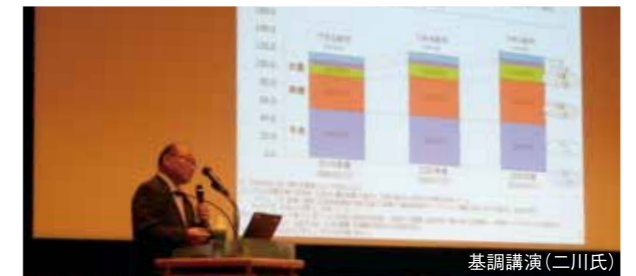
2018年3月23日に栗原理事長はじめ法人幹部出席のもと開講式を執り行い、式では元厚生労働事務次官の

2018年度 医療マネジメント講座 授業科目一覧 (2019年度現在)

系統名	授業科目	講師	職名	
医療政策	基調講演	二川一男	元厚生労働事務次官	
	わが国の医療の現状と課題	三浦公嗣	慶應義塾大学病院 教授	
	世界の医療制度	真野俊樹	多摩大学大学院教授/医療・介護ソリューション研究所 所長/中央大学ビジネススクール 教授	
医療の質	医療計画	近藤太郎	近藤医院 院長/公益社団法人 東京都医師会顧問	
	病院機能評価	橋本迪生	公益財団法人 日本医療機能評価機構 常務理事	
	理念・戦略・BSC、医療の質	浅野晃司	大学理事	
医療関連法規と医の倫理	医療と法	野本俊輔	野本・吉葉法律事務所 弁護士(本学顧問弁護士)	
	医療倫理	勝山貴美子	横浜市立大学 大学院医学研究科看護管理学分野 教授	
	施設の災害対策	算 淳夫	工学院大学 建築学部 教授	
建築・設備	病院の財務会計	小林健一	国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部 主任研究官	
	財務会計	佐藤哲也	法人事務局財務部 部長	
	原価計算	渡辺明良	学校法人聖路加国際大学 常任理事・法人事務局長	
経営戦略論	医療経済評価	福田 敬	国立保健医療科学院 保健医療経済評価研究センター センター長	
	ベンチマーク	植松美知男	法人事務局経営企画部 部長	
	コストマネジメント	平田房彦	前慈恵メディカルサービス株式会社 取締役副社長	
	医療連携	石川智久	消化器・肝臓内科 准教授/患者支援/医療連携センター センター長	
	マーケティング	横山秀彦	附属病院事務部 部長	
	診療報酬(DPC)・施設基準	内山智雄	附属病院事務部 業務課 課長	
	地域包括ケアにおける医療の役割・連携協働	櫻井尚子	東京慈恵会医科大学看護学専攻地域連携保健学分野 教授	
	ブランディング、広報戦略	比留間雅人	株式会社電通 メディカル・ヘルス領域の事業開発担当	
	人的資源管理と人材開発	リーダーシップ論	小山秀夫	兵庫県立大学経営研究所 名誉教授・特任教授
	問題解決型思考	奥村隆一	株式会社三菱総合研究所 シニアリサーチプロフェッショナル	
労働衛生	田中幸子	東京慈恵会医科大学 医学部看護学科 教授		
	修了式			

二川氏に基調講演をお願いした。

講義はすべて予定通り行われ、2019年3月18日に修了試験を実施、全員が3つの修了要件を満たした。3月25日には修了式を執り行い、59名(1名は途中退職)に理事長から修了証書が授与された。



基調講演(二川氏)

4 成果

全22コマの講義を通じて、病院マネジメントに関する広範囲な基礎知識の習得に繋がった。講義終了後も活発な質疑応答がなされ、知識を実践に結び付けようとする姿勢が強く感じられた。

また、1年間共に学ぶことで受講者の間に職種や年齢を超えた連帯感が芽生え、組織横断的な繋がりが生まれたことも大きな成果と考えている。

修了者からは、「今後も自己研鑽に励み、大学に貢献したい」という前向きな意見が多く寄せられたため、2019年8月末にはフォローアップ研修を開催する予定にしている。



修了証書授与



1期生集合写真

今後の課題

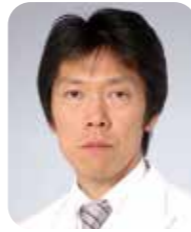
本講座はこれからの将来を担う、若手・中堅教職員の育成を主たる目的とするため、応募資格に制限を設けていたが、1年間の講義を終え、様々な層からも受講を望む声が上がっている。

今後は、日々変化する医療環境・ニーズに応えるため、応募資格の見直しや講義内容の改定も含め、柔軟な対応を行っていく必要がある。

本講座が教職員の学びの場として定着し、個人、組織の更なる発展に貢献することを期待している。

02 Ongoing 研究

腎臓・高血圧内科
教授 横尾 隆



再生腎臓を透析患者に届ける産官学協力体制の構築

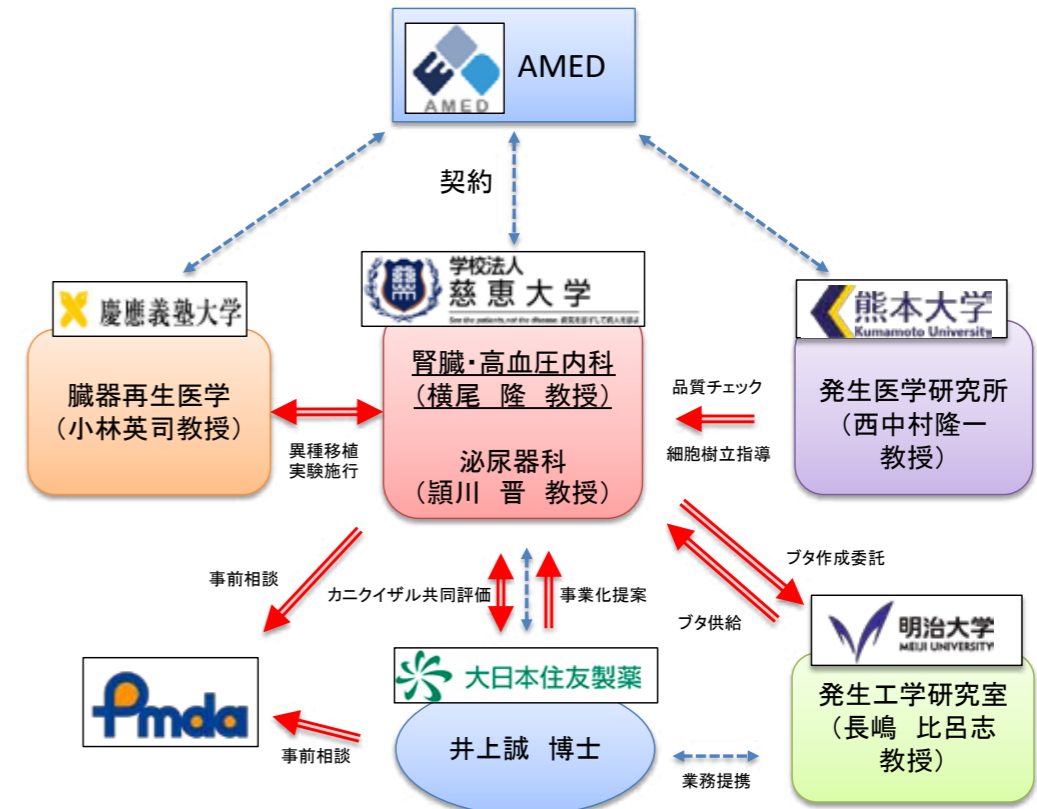
我々が開発した「再生臓器ニッチ法」による腎臓再生法開発は、小動物によるPOCの取得が終了し、いよいよヒト臨床に向けた最終段階に向かおうとしている。臨床への最終形として凍結した腎臓の種 (Kidney Seed) の製品化を目指す。この成果物を実臨床に実装するには他分野の協力を得た一大コンソーシアムの構築が必要となる。

2018年vol.30の本誌で詳細な方法は掲載した通りであるが、我々は20年以上にわたり腎臓再生による新規治療法開発にチャレンジしてきた。我々が開発した「胎生臓器ニッチ法」とは、発生の過程で幹細胞から臓器まで分化誘導する環境(臓器発生ニッチ)を異種動物から借用して患者由来腎臓前駆細胞から腎臓を再生するというものである¹⁾。新たに開発したネフロン前駆細胞置換システムを搭載させることにより、世界で初めて患者由来iPS細胞から尿生成能を獲得した再生腎臓の樹立に成功した²⁾³⁾。この方法は現在の再生医療の主流である幹細胞療法や二次元的シート療法と一線を画した、臓器そのものを作るという前人未達の領域であり今まで諦められてきた。しかし実際の臨床現場では移植により救える命がドナー不足により失われている現状があり、今回の成功の持つ意味は分野をまたいで注目される。我々は小動物を用いたPOCの取得に成功したことにより、いよいよ臨床に向けてギアを一つ上げなければならない段階まで到達することができた。

ヒト臨床適応のための最終ステップとして必要なことは、

ヒトに使用可能な規格のネフロン前駆細胞を作る事、それを後腎ニッチ内に埋め込んだ腎臓のタネ (kidney seed) を作りヒト移植可能な規格にする事、大動物を用いて安全性有効性を証明し、それを法令に準拠する形で最終製品として配布可能とする事などが挙げられる。つまり我々が今まで行ってきた小動物を対象とした実験系とは明らかに規模が違い、もはや一臨床教室が単独で行うフェーズではなくなった。これには産官学が協調してコンソーシアムを形成して開発を進めていく必要がある。我々の1番の強みは臨床教室である事であり、患者さんに寄り添いその苦痛や負担を常に共有できるのでモチベーションを維持できるし、科学的興味をの深みにはまらなくて済む。しかし臨床にほとんどの時間を割かれるため、研究の進みが遅くなることが問題であった。今まではなんとか身を削って時間を作り研究を進めてきたが、次の高みを目指すには、アカデミア同士で協力を仰ぎ相互補完することを可能にするため、異分野での専門家の協力を得る事が必要である。我々の努力もさることながらこれまでも我々の心意気に賛同して参画をさせていただいてきた研究者が集い、この度この領域のドリームチームとも言える強力な布陣を引くことに成功した(図)。

明治大学農学部の長嶋比呂志教授は言わずと知れた実験ブタの世界的権威で、多くの遺伝子改変ブタを世に排出してきた。ブタ遺伝子改変技術は世界的にも右に出る者はいないとされている。また慶応大学小林英司教授はげっ歯類からブタ、サルに至るまで広く実験手術手技に精通しており、特にマイクロサージャリーを用いた手



図：腎臓再生国内コンソーシアム

技は卓越している。今回本学泌尿器科・颯川晋教授のご承諾のもと、泌尿器科の若手医師(佐々木裕先生、都築俊介先生など)の参画が決まり、ヒトの擬似モデルとしての大動物手術ができるようになり、さらに将来的には腹腔鏡下での低侵襲手術を目指すことが可能となった。力強い助っ人たちである。また基礎分野からは、iPS細胞からネフロン前駆細胞などの腎臓構成細胞の前駆細胞分化法の樹立をこれまで手がけてきた熊本大学西中村隆一教授が基礎的な側面を強力にサポートすることが決まった。産業界からは、腎臓再生を目指すベンチャー企業である(株)バイオス(社長:林明男氏)が特許戦略をこれまで担当していたが、今回新たに大日本住友製薬(DSP)の井上誠博士にも参画いただくことになった。COIの問題もあり研究費の提供は受けることは一切ない

参考文献

- 1) Yokoo T, et al. Human mesenchymal stem cells in rodent whole-embryo culture are reprogrammed to contribute to kidney tissue. Proc Natl Acad Sci USA 2005; 102(9): 3296-3300
- 2) Yamanaka S et al. Generation of interspecies limited chimeric nephrons using a conditional nephron progenitor cell replacement system. Nat Commun 2017; 8(1): 1719
- 3) Fujimoto T et al. In vivo regeneration of interspecies chimeric kidneys using a nephron progenitor cell replacement system. Sci Rep 2019; 9(1) 6965

が、DSPは既に再生分野で先行している網膜色素変性症やパーキンソン病の臨床応用について多くの経験を持ち、またGMPグレードの製品化のための施設を所有しているため、PMDAとの折衝も含め産業化のノウハウを共有してもらうこととなる。これだけの布陣が組めれば、今まで以上に腎臓再生の実用化に向けて推進できるのではないかと期待している。

しかしまだまだ一足飛びには進まないのが現状なのかもしれない。まだまだ先が進めば進むほどゴールが遠ざかっていく気がする。また臨床、教育に加え世界レベルの研究を推進することは気力体力的にかなり厳しい状況となるが、日頃一緒に腎臓病と闘っている患者さんに力をもらいながらこれからも邁進していくつもりである。



上皇陛下とシーラカンス



シーラカンスの解剖を見学される天皇陛下(現上皇陛下)
左が岡部正隆教授、右がミヤケツトム客員准教授(現客員教授)



写真提供:共同通信社

平成20年の秋、東京工業大学の岡田典弘教授(現同大名誉教授)から思いがけない依頼を受けた。「天皇陛下にシーラカンスの解剖をお見せしたいのだが、岡部さんに執刀していただきたい。ご存知のように陛下は魚類学者。岡部さんなら魚類の形態にも人間の解剖にも詳しいし、お願いできないだろうか。」

よみうりランドに展示されていた液浸標本を小学生の時にみただけで、解剖どころか生のシーラカンスに触れたこともない。天皇陛下に解説なんてできるものかと躊躇したが、これまでの経緯や背景にある諸問題に関して事情を聞き、最終的にはお引き受けすることにした。

シーラカンス類は約4億年前から生息する魚類で、デボン紀以降の地層から発見される化石と現在の姿がほとんど変わらない「生きた化石」である。現存するシーラカンス類は2種でアフリカ東海岸に生息するカラムナエ(*Latimeria chalumnae*)とインドネシアに生息するメナドネンシス(*Latimeria menadoensis*)である。運良く、解剖学講

座の客員准教授であったミヤケツトム氏(現客員教授)の紹介で、インドネシアでシーラカンスの生態調査を行なっている水族館アクアマリンふくしまでメナドネンシスのオスを解剖する機会を得た。おかげでシーラカンスの形態を解剖しながら学ぶことができた。この時解剖した個体は現在アクアマリンふくしまで一般に公開されている。陛下にお見せするシーラカンスは東工大に寄贈されたカラムナエのメスであった。我々はこの凍結個体を本学で事前に解凍し、シーラカンスの特徴を観察しやすいように解剖を進めた。腹部内臓、脊椎、ウキブクロ、脳、ヒレなどの局所解剖を行い、最終的にはホルマリンに浸けて本番を待った。

シーラカンスの天覧解剖は平成21年10月5日の午後に東工大すずかけ台キャンパスで行われた。その日の午前中、陛下は御所で京都大学の中坊徹次教授(現同大名誉教授)より講義をお受けになり、その後東工大に向かわれた。一足早く会場に到着した中坊氏より「午前中陛下は肩甲骨に興味を持たれていた」と聞く。慌ててその場で肩

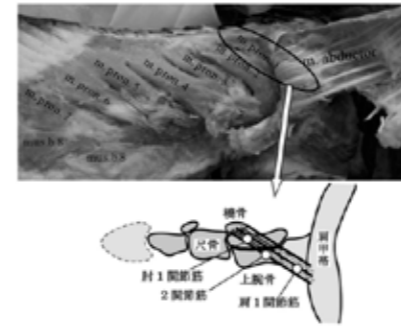


図1:シーラカンスの胸ビレの第1回内筋。肩甲骨から橈骨に伸び、多関節を支配している。(熊本水類 Sportsmedicine 195, p40, 2017より転載)



図2:シーラカンスのウキブクロは肺を転用したものの

甲骨の解剖をさらに進める私の姿は、試験の直前情報に慌てて資料を読み返す学生そのものである。陛下が解剖室に入られると、冒頭5分間だけ記者やカメラマンに公開されたが、その後は研究者だけになった。陛下の質問は途切れることなく、私の解説に対してもさらに質問をされる。全くもって研究者の質問ばかりであった。自らゴム手袋を着用し、諸臓器の感触を確かめられ、その立居振舞から失礼ながら陛下が本当に魚類学者であることを疑う余地はなかった。大幅に予定の時間を超過して陛下は存分にシーラカンスを堪能されていた。見学終了後、別室で陛下とお話する機会があった。陛下は私にどのような研究をしているのかについてお尋ねになり、私は脊椎動物の陸上進出における形態進化の研究をするために様々な魚類を使っていることをお話しした。その中で、プロトプテルス、ネオケラトドス、レビドシレン、ポリプテルスなど原始的な魚類のラテン語名が会話の中でごく自然に使われ、しばし目の前におられる方が陛下であることを忘れるほどであった。我が国の天皇陛下の豊かな学識に触れ、大いに感銘を受けた。

この生きた化石を用いることで、私たちの研究室でもいくつかの研究が進んだ。脊椎動物の上陸を物語る2つの研究を紹介する。

我々の四肢は魚類の胸ビレと腹ビレに由来するが、陸上での移動と動作の調節には滑らかに素早く正確に制御するために二関節筋が不可欠である。例えば上腕二頭筋は、肩甲骨と前腕の骨を結んでおり、収縮すると肩関節と肘関節が同時に動く。二関節筋は、各関節を個別のモーターでコントロールするヒト型ロボットにはできない滑らかな運動と多方向へのトルク配分を可能にしている。シーラカンスの胸ビレを詳細に観察した結果、肩甲骨から起こる筋肉が上腕骨を超えて橈骨に停止しており、すでに二

関節筋による四肢の運動制御機構が完成していた(図1)。我々の手足の運動制御の基本は上陸以前にすでに獲得されていたのである¹⁾。

もう一つは我々の肺の起源に関する研究である。ダーウィンは「種の起源」で魚類のウキブクロが肺に変化した可能性を述べている。系統分類上、四肢動物(陸生の脊椎動物)とハイギョとシーラカンスは肉鰭類と呼ばれるグループで、一般的な硬骨魚類である条鰭類とは約4億年前に分岐している。肉鰭類で肺を持つのは四肢動物とハイギョだけで、より原始的な肉鰭類であるシーラカンスは肺を持たず、その代わりに脂を詰めたウキブクロを持ち深海に適応している。ところがさらに進化を遡ると、最も原始的な条鰭類であるポリプテルスが我々の肺によく似た肺を持っている。このポリプテルスの肺と四肢動物の肺を遺伝子レベルで比較したところ、この2つの肺は同じ起源を持つことが明らかとなり、肺の起源は肉鰭類と条鰭類の共通祖先にまで遡ることになった²⁾。そしてシーラカンスのゲノムを解析したところ³⁾、シーラカンスのウキブクロは片方の肺に脂をつめたものであることがわかった(図2)。また、ポリプテルスよりも進化した条鰭類は肺ではなく皆ウキブクロを持っていることから、ダーウィンの予測に反して肺はウキブクロよりも起源が古いことが確認できた。

どちらの結果も、我々の祖先は上陸に際して新しい器官を一から進化させたのではなく、すでに獲得されていた形質をうまく利用したことを示している。

参考文献

- 1) Miyake T et al., Anatomical record, 299(9) 1203-1223, 2016.
- 2) Tatsumi N et al., Scientific reports, 6 30580, 2016.
- 3) Nikaido M et al., Genome research, 23(10) 1740-1748, 2013.

葛飾医療センター泌尿器科
教授 清田 浩



性感染症の今後の課題について

はじめに

感染症は日々変貌しつつあり、性感染症も例外ではない。生物エコロジーの常として原因菌は生き残りをかけて耐性化しつつあり、さらに性感染症の場合は性の多様化を背景として複雑に蔓延している。本項では性感染症の今後の課題として、予防の問題点、薬剤耐性株について述べる。

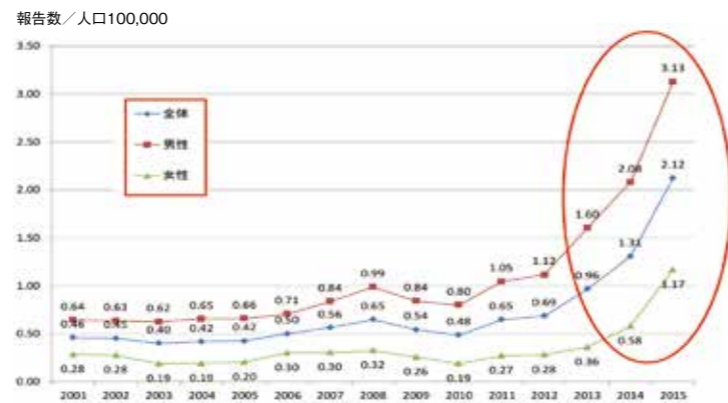


図1 人口10万人当たりの梅毒患者報告数の推移

1 梅毒の蔓延と性感染症啓発の課題

梅毒は2011年あたりから増加の一途を辿り、2018年には6000名を超える新規梅毒患者が報告されている。しかも今までは男性同性愛者を中心とした蔓延していたものが男女の垣根を越え、女性まで拡大していることが問題となっている(図1)。性感染症患者をいかに早く医療機関あるいは保健所に受診させるかが性感染症の蔓延予防にきわめて重要である。これに対し国民への梅毒の啓発を官学挙げて取り組んでおり、Webでの情報発信(図2)、パンフレットの配布などをおこなっている(図3)。

一方、性感染症のハイリスク群である好発年齢層ではTVも新聞も見ない人が増えている。さらにはインターネットすらアクセスせず、SNSやLineなどを利用するような状況である。このように、刻一刻変化する性感染症のハイリスク群に対する情報伝達法にわれわれ情報発信者は迅速に対応しなければならない。一部の研究者はインターネットのアクセス履歴からハイリスク群を把握し、性感染症情報を載せたバナーを発信する試みをおこなっている。これには広告代理店の支援が必要となるが、今後の予防効果が期待されている。学校教育における性感染症

教育の重要性はハイリスク群を含めたすべての若年層に対する性感染症の啓発が再認識され、学校現場や地域の保健所における性感染症教育のアプローチについての様々な試みがなされている。

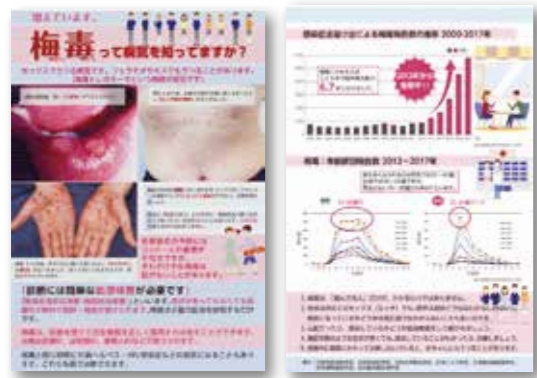


図2 日本性感染症学会の「ストップ!梅毒」キャンペーン



図3 厚生労働省(左)、東京都(右)のパンフレット

2 淋菌の薬剤耐性化

淋菌感染症は代表的な性感染症の1つである。原因菌である淋菌は1980年頃までは薬剤耐性菌がなくペニシリンが有効であったため治療には問題はなかった。しかし、1980年代前半からペニシリンを分解する酵素(ペニシリナーゼ)を産生する淋菌(PPNG)が蔓延したためペニシリンが使えなくなった。ペニシリンの後に使われたのがニューキノロンであったが、これも間もなく耐性菌が出現し、次に使われた経口セフェムも同様に耐性菌が出現した(図4)。このように淋菌の耐性化の速度は早く、現在ではセフトリアキソンとスペクチノマイシン(アミノグリコシド系抗菌薬)の2剤の注射薬のみが推奨されている。淋菌感染症の20~30%は

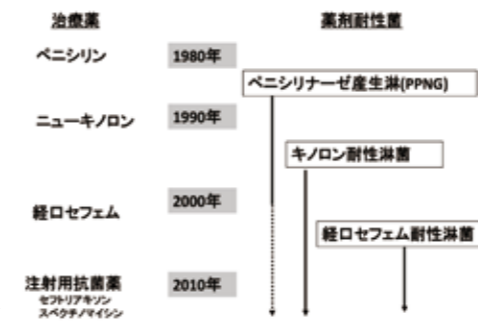


図4 淋菌の薬剤耐性の変遷

症状のない咽頭感染を合併しており、これに対してはスペクチノマイシンが無効であるためセフトリアキソンが第一選択薬となっているが、このセフトリアキソンに対する淋菌の耐性化が世界的に徐々にではあるが進行しつつあり、WHOは2014年には重要な薬剤耐性菌に位置付けている(図5)。今後、セフトリアキソン耐性淋菌が蔓延した場合は次の薬剤がなく、現在様々な検討がなされているところである。



図5 セフトリアキソン低感受性淋菌の蔓延状況(WHO 2014) <http://www.wpro.who.int/hiv/topics/gasp/en/index2.html>

3 マイコプラズマ・ジェニタリウムの薬剤耐性化

マイコプラズマ・ジェニタリウムは男性の尿道炎、女性の膣炎の原因微生物の1つであるが、その同定法は保険収載されておらず、日常臨床の場ではそれを推測して治療されてきた。幸い今まではクラミジア感染症に有効なアジスロマイシンやテトラサイクリンなどが有効であったため、臨床現場では困ることがなかったが、近年、アジスロ

マイシンに耐性のマイコプラズマ・ジェニタリウムが増加し問題となっている。アジスロマイシン無効例にはシタフロキサシンが推奨されてきたが、シタフロキサシンにも無効例が散見されるようになり今後は診断法の保険収載と新たな治療法の模索が必要となっている。

4 ヒトパピローマウイルスワクチンの問題点

子宮頸癌あるいは尖圭コンジローマ(性感染症である陰部のイボ)の原因となるヒトパピローマウイルスに対するワクチンは既に欧米の先進国では定期予防接種化されていて、これらの国々では子宮頸癌と尖圭コンジローマの患者数が劇的に減少している。これに対しわが国では慢性疼痛などの副反応が大きく問題化しており、定期

予防接種の普及を妨げている。これらの副反応の発現率はワクチン非接種者のそれとは有意差がないことが明らかにされており、WHOもわが国に対し定期予防接種普及を勧告しているが、被害者団体などを中心とした反対の声が大きく、残念ながら頓挫している。一刻も早いワクチンの普及が望まれている。

以上、簡単にわが国における性感染症の今後の課題について述べた。性感染症の問題点は多く、今後も関連学会を通じて情報発信をおこなっていきたいと考えている。



内視鏡医学講座
炭山 和毅

消化器癌の内視鏡診断・治療を専門としています。世界をリードする日本の内視鏡を更に発展させるべく、臨床、研究、人材育成に励んでまいります。引き続きご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

- 略歴：平成10年 東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業
- 平成15年 東京慈恵会医科大学大学院医学研究科博士課程修了
東京慈恵会医科大学内視鏡科助手
- 平成17年 米国Mayo Clinic College of Medicine留学
- 平成19年 東京慈恵会医科大学附属青戸病院内視鏡部診療医員
- 平成21年 東京慈恵会医科大学附属病院内視鏡部診療医員
- 平成24年 東京慈恵会医科大学内視鏡科講師
- 平成27年 東京慈恵会医科大学内視鏡科教授
- 平成30年 東京慈恵会医科大学内視鏡医学講座担当教授

- 出身地：東京都
- 趣味・特技：ゴルフ

平成30年10月1日公示



附属病院 病院長
小児科学講座
井田 博幸

皆さんと一緒に“信頼される慈恵大学病院”、“選ばれる慈恵大学病院”、“教職員が誇れる慈恵大学病院”を作り上げていきたいと考えていますのでご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

- 略歴：昭和56年 東京慈恵会医科大学卒業
- 昭和59年 東京慈恵会医科大学小児科学講座 助手
- 平成元年～平成3年
Visiting Assistant Professor Department of Pediatrics,
Georgetown University, Washington DC, USA
- 平成8年 東京慈恵会医科大学小児科学講座 講師
- 平成14年 東京慈恵会医科大学小児科学講座 助教授
- 平成20年 東京慈恵会医科大学小児科学講座 講座担当教授
- 平成25年 学校法人慈恵大学 理事
- 平成25年 東京慈恵会医科大学附属病院 副院長
- 平成31年 東京慈恵会医科大学附属病院 病院長

- 出身地：神奈川県横浜市
- 趣味・特技：仕事・クラシック音楽鑑賞

平成30年10月25日公示



内科学講座
糖尿病・代謝・内分泌内科
西村 理明

我が国の糖尿病診療をリードしてきた教室の伝統をさらに発展させ、インスリンポンプや持続血糖モニターなどの先進医療、内分泌疾患の診療にも積極的に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 略歴：平成3年 東京慈恵会医科大学卒業
- 平成9年 同大学 臨床系大学院(内科)修了
- 平成10年 医学博士 取得
- 平成10年 Graduate School of Public Health, University of Pittsburgh修了
(MPH取得)
- 平成12年 富士市立中央病院 内科医長
- 平成12年 Adjunct Assistant Professor, Graduate School of Public Health,
University of Pittsburgh
- 平成14年 東京慈恵会医科大学・糖尿病・代謝・内分泌内科 助手
- 平成18年 同 講師
- 平成23年 同 准教授
- 平成30年 同 教授
- 平成31年 同 講座担当教授

- 出身地：東京都
- 趣味・特技：旅行

平成31年4月1日公示



分子生理学
竹森 重

宇都宮教授から医学科長・教学委員長を引き継ぎました。青天の霹靂でした。第1生理学教室に私が入った当時、馬詰教授から「やるときはいつも一生懸命!」と教えられたのを思い出しました。宜しくお願いいたします。

- 略歴：昭和60年 3月 東京慈恵会医科大学卒業
- 昭和60年 4月 東京慈恵会医科大学第1生理学教室 助手
- 平成4年 10月 東京慈恵会医科大学第1生理学教室 講師
- 平成19年11月 東京慈恵会医科大学分子生理学講座 准教授
- 平成22年 4月 東京慈恵会医科大学分子生理学講座 講座担当教授

- 出身地：千葉県
- 趣味・特技：研究・懇親会

平成30年12月27日公示

新たな
講座
の紹介

臨床薬理学講座

本講座が日本の 臨床薬理学のモデルになるよう 精進していききたい



臨床薬理学講座
教授
志賀 剛

2019年4月1日より臨床薬理学講座が開設されました。本講座は1997年5月に景山茂教授のもとで発足した薬物治療学研究室を前身とし、臨床講座として設置されました。薬物治療の基本は有害事象を防ぎながら最大の薬理効果を上げることです。臨床薬理学は、基礎医学における薬理学とは異なり、個々の患者に対応した科学的な薬物治療(個別化治療)の確立を目指した学問領域です。第二次大戦後、欧米を中心に臨床医学の一分野として展開され、日本でも1974年に自治医科大学に初めて臨床薬理学講座が設置されました。

臨床薬理学と慈恵医大との関係は歴史が古く、日本臨床薬理学会の設立に尽力された柳田知司先生、わが国における臨床薬理学の普及に努められた水島裕先生を始め、多くの慈恵医大出身の先生方が日本の臨床薬理学を牽引されてきました。これも本学創始者の高木兼寛先生の精神が受け継がれているものと思います。

私は大学院時代に臨床薬理学を学び、その後臨床医(循環器内科)として診療、教育、研究に携わってきました。その間、多くの新薬が開発されましたが、循環器領域以外の薬でも心毒性の問題に直面しました。薬物治療で

は、細分化された専門性ととも領域を超えた横断的検討が必要です。今後、様々な領域の先生方とタッグを組んで、より良い薬物治療法の確立に取り組んでいきたいと考えています。

近年、医療が専門化し、高度化しているなかで医薬品に伴う事故や薬害、医師のモラルが問題となっています。医学部学生時代からしっかりと科学的な薬物治療の考え方を学び、実践できる医師を育てていけるよう教育にも力を入れてきます。今後、本講座が日本の臨床薬理学のモデルになるよう精進していききたいと思っておりますので、ご支援ご指導のほどお願い申し上げます。

新たな
組織
の紹介

分子遺伝学研究部 (総合医科学研究センター)

慈恵大学におけるゲノム医学、 免疫アレルギー研究の発展に 貢献していききたい



分子遺伝学研究部
教授
玉利 真由美

2019年4月より総合医科学研究センター基盤研究施設(分子遺伝学)から独立して、分子遺伝学研究部が組織されました。教授の玉利、講師の廣田はこれまで、理化学研究所において長年、アレルギー疾患を中心にゲノムワイド関連解析(GWAS)を中心としたゲノム解析を行って参りました。ヒトゲノム研究は、がんやありふれた疾患の病態の理解を深めるとともに、新たな予防法、診断法、治療法の開発には欠かせないものとなって

います。我々の研究室では、免疫アレルギー疾患のゲノム情報や質量解析情報等を用いて、疾患に関連する遺伝子群、パスウェイを同定し、それらの機能解析を通して、疾患メカニズムの解明を行っており、現在、皮膚科、耳鼻咽喉科、小児科と共同研究を行っています。また、教育においては、臨床基礎医学のゲノム医学、大学院共通カリキュラムにおけるバイオインフォマティクスを担当しています。大学院生をはじめ、学内の研究者から

ゲノム研究・解析についての様々な相談も受けています。また、玉利は厚生労働省「免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」研究班の研究代表者として、免疫アレルギー疾患研究10か年戦略の推進に向けた取組みも行なっています。これらの教育・研究を通じて、慈恵大学におけるゲノム医学、免疫アレルギー研究の発展に貢献していききたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

慈恵大学で開催された様々なイベントをご紹介します。

1月4日

新年挨拶交歓会

2020年の慈恵大学に向けて新たな門出を祝う

新年挨拶交歓会が2019年1月4日(金)に大学1号館講堂に於いて開催されました。谷口専務理事が司会で、栗原理事長ならびに松藤学長、各機関長(丸毛院長、吉田院長、中村院長、秋葉院長)よりご挨拶がありました。

栗原理事長より新役員体制、西新橋キャンパス再整備計画の進捗、日本の医療情勢等が述べられ、新たな門出に相応しい新年挨拶交歓会となりました。

1月31日

2018年度 退任記念講義・パーティー

大学1号館講堂で行われた退任記念講義、
夜には東京プリンスホテルにて記念パーティーを開催

2019年1月31日(木)、定年退任となる宇都宮 一典教授(内科学講座・糖尿病・代謝・内分泌内科、医学科長・教学委員長)、池上 雅博教授(病理学講座)の退任記念講義が大学1号館講堂(3階)で行われました。

その後、同じく定年退任となる斎藤三郎教授(分子免疫学研究部)・關根広教授(放射線医学講座)・磯西成治教授(産婦人科学講座)・佐々木敬教授(臨床医学研究所)・木村直史教授(医学教育研究室・薬理学講座)・加地正伸教授(大学直屬)・大野岩男教授(内科学・総合診療内科)・鈴木正章教授(病理学講座)・本間定教授(悪性腫瘍治療研究部)・鈴木直樹教授(高次元医用画像工学研究所)が紹介され、学長挨拶、記念品贈呈等が行われました。



同日夜には東京プリンスホテルプロビデンスホールにて退任記念パーティーが盛会に開催されました。



1月15日

オープンサイエンスセミナー

研究データの公開と粗悪雑誌への対応について考えるセミナーが開催されました

学術情報センターでは、2019年1月15日(火)に、国立情報学研究所オープンサイエンス基盤センターの尾城孝一特任研究員を講師としてお迎えして、「オープンサイエンスセミナー」を開催しました。学術論文だけでなく関連する研究データもインターネット公開することにより、研究成果の共有と新たな研究の進展を図るオープンサイエンスの必要性が国内外の研究者により議論されています。セミナーでは、松藤学長をはじめ、学内から35名の参加者があり、多様な研究データを保存・公開するシステムに関して国立情報学研究所が構想している内容の説明を通して、オープンサイエンスの環境整備に必要となる取り組みを考えることができました。

セミナーの後半は、学術情報センター職員から粗悪雑誌への対応について報告をしました。インターネット上に公開されている雑誌の中には、著者から徴収する論文加工料による収入のみを目的としており、掲載論文の質や管理に疑問がもたれる粗悪雑誌が存在しています。論文を投稿する雑誌の選定の際に考慮すべき点について意見交換をする機会となりました。



2月18日

第1264回成医会例会 『平成を振り返る 混迷の時代を生きる ～私の取材ノートから～』

フリージャーナリスト 江川紹子氏

2019年2月18日(月)、第1264回成医会例会が開催された。「平成」最後の成医会例会であることから、ジャーナリストとして長く活動されている江川紹子氏に「平成を振り返る 混迷の時代を生きる～私の取材ノートから～」と題して自身の取材ノートや当時の流行を振り返りながらご講演いただいた。当日は4機関テレビ会議システムを使用し多くの職員が出席した。



3月2日

第94回医学科・第24回看護学科卒業式

医学科113名、看護学科59名一人ひとりに卒業証書が授与される

2019年3月2日(土)午後1時30分から2号館講堂に於いて第94回医学科・第24回看護学科卒業式が挙行されました。卒業生は医学科113名、看護学科59名でありました。音楽部管弦楽団が「威風堂々」を演奏する中、松藤学長を先頭に栗原理事長、宇都宮医学科長、北看護学科長、名誉教授、高橋同窓会長、一志医学科保護者会長が入場され厳粛に卒業式が開始されました。国歌斉唱後、松藤学長より卒業生一人ひとりに卒業証書(学位記)が授与され、続いて慈大賞が黒崎元博君(医学科)と村田日向子さん(看護学科)に授与されました。また、同窓会賞が高橋同窓会長よ

り土門一迅君(医学科)と山本葵音さん(看護学科)に、保護者会賞が一志医学科保護者会長より佐久間俊紀君(医学科)に授与され、更に日本私立看護系大学協会賞が、瀧田万里さん(看護学科)に授与されました。次いで樋口一成記念杯については、運動部門(卓球部)、文化部門(かるた部)に記念の樋口杯が授与されました。その後、宇都宮医学科長、北看護学科長による学事報告、松藤学長による式辞、栗原理事長による祝辞、在校生代表による送辞、卒業生代表による謝辞が述べられ、学生歌斉唱の後、厳かなうちに卒業式を終了しました。



慈恵看護専門学校卒業式

公益社団法人東京慈恵会総裁
寛仁親王妃信子殿下御臨席のもと
67期生85名が卒業

2019年3月8日(金)2号館講堂に於いて慈恵看護専門学校卒業式(67期生85名)が公益社団法人東京慈恵会総裁寛仁親王妃信子殿下御臨席のもと、盛大に挙行されました。



3月10日

2019年度医学部入学式

2019年4月11日午後2時より医学科・看護学科の入学式が執り行われる

2019年4月11日(木)午後2時より2号館講堂に於いて医学科・看護学科の入学式が厳粛に執り行われました。音楽部管弦楽団が奏でる「威風堂々」とともに松藤学長を先頭に、栗原理事長、竹森医学科長、北看護学科長、名誉教授、高橋同窓会長、一志保護者会長が入場し、開会が宣せられました。入学者は医学科109名、看護学科60名でありました。国歌斉唱後、松藤学長の入学許可に続き、医学科入学生を代表して田原秀悟君、看護学科入学生を代表して廣夏鈴さんより宣誓が述べられました。

続いて入学生および在校生に対して松藤学長より告辞が述べられ、次いで栗原理事長より、祝辞が述べられました。

次いで、入学生を代表して医学科・田中屋和暉君と看護学科・仁田脇紫織さんに記念品が贈呈され、学生歌斉唱の後、厳かなうちに入学式を終了しました。



4月11日

4月1日

新入職員就任式

545名の新入職員が、新しい一歩を踏み出す



2019年4月1日(月)午前10時より2号館講堂に於いて新入職員就任式が執り行われました。式典では初めに栗原敏理事長より告辞を賜り、松藤千弥学長の祝辞と四機関病院長を代表して井田博幸附属病院長の祝辞を賜りました。天候にも恵まれ、新入職員就任式は明るく晴れやかな雰囲気の中、厳かに進められ、545名の新入職員が喜びとともに大きな期待と希望を胸に慈恵大学での第一歩を踏み出す門出となりました。

学祖・高木兼寛先生 生誕170年記念講演会の開催

女子スピードスケート金メダリストの小平奈緒選手と結城匡啓コーチをお招きして感動をいただきました

今年は学祖・高木兼寛先生生誕170年にあたります。先生は医師と看護師の育成に努めるとともに、脚気の原因が食事にあることを示唆し、晩年は数多くの講演会で食事とともに運動の重要性を説きました。先生の生誕170年を記念して、2018年のピョンチャン・オリンピックで、女子スピードスケート500mの金メダルに輝いた、小平奈緒選手と結城匡啓コーチをお招きして、2019年6月4日(火)、午後5時半から2号館で講演会を開催し、出席した多くの方が感動しました。



6月4日



2019年 主な行事予定表

7月20日(土) 看護学科第1回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
7月21日(日) 看護学科第2回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
8月1日(木) 東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム 大学1号館講堂・2号館講堂
8月14日(水) 医学科第1回オープンキャンパス(2号館講堂) 午後1時
8月15日(木) 医学科第2回オープンキャンパス(2号館講堂) 午後1時
10月5日(土) 同窓会支部長会議・学術連絡会議(午後3時30分から大学1号館講堂)
10月10日(木) 第136回成医会総会
10月11日(金)

10月12日(土) 高木兼寛先生記念日
学祖高木兼寛先生墓参及び懇談会(午後3時30分中央棟前集合)
10月19日(土) 卒後50周年記念大学招待懇親会(昭和44年卒)(午後6時から東京プリンスホテル)
10月28日(月) 第115回解剖諸霊位供養法会(午後1時から増上寺)
11月2日(土) 医学科保護者会秋期総会(午後3時から大学1号館講堂・2号館講堂)
12月25日(水) 教授・准教授懇談会(午後6時からノリスホテル 4階 山吹)

慈恵看護教育の ‘いま’



慈恵看護専門学校副校長
上問ゆき子



初代看護婦教育所 所長
高木 兼寛



看護婦教育所 指導者
M・E・リード

明治18(1885)年に高木兼寛先生によって始められたわが国初の看護師教育機関である慈恵看護専門学校は、今年135年目を迎えた。明治の開校以来、卒業生総数は7,000名を超え、全国各地、世界にも羽ばたき活躍している。明治～大正～昭和そして平成から令和へと時代が移り代わり、まさに日本の近代の歩みとともに看護師教育もその歴史を重ねてきた。時代がいかに変化しようとも、慈恵の看護の精神—人々の幸を願ひ献身する—は先輩諸姉によって確実に受け継がれ今に至っている。戦後の制度改正後に入学した学生は、今年2019年4月で第70期生となった。

看護専門学校は3年間の教育期間で大変内容の濃い教育を行っている。学生は学内で看護の基礎となる知識や技術を学び、さらに臨地で教員や実習指導者の指導を受けながら生身の人と向き合い、思い悩み考えながら看護を学ばせてもらっている。看護は、自分がした

いことをそのまま行わない。相手の人格を尊重し、病状の変化をとらえてその人が望む生活の実現に向けて生活を支えるための手立てを考え実践する、その過程で看護者としての在り方も学んでいくのである。3年間で学生は大きく成長するが、特に

臨地での学習がその成長を後押ししている。先ごろ実習中の3年生のある学生について、教員より報告をうけた。学生は50代の女性で白血病のため骨髄移植を受けたAさんを担当した。治療で生じた下痢や食欲不振が徐々に改善していることに対して学生は、食事がとれませんでしたね、ここまで歩きましたねと今日できたことを認め、それを伝える関わりをした。当初Aさんは学生には明るい表情を見せていたが、これからどうすべきか目標が定まらなくなったといわれた。しかし日々学生と話をすることで、幼少時家庭の事情で寂しい思いをした辛い体験とともに、いま自分のケアをしてくれている人に感謝の思いを伝え、自分と同じような病気で苦しむ人にアドバイスすることを次の目標にしたい、といわれたという。学生は、Aさんを人に気を遣い弱さを見せない方と捉えていたが、丁寧に関わることで言動が変化してきたと感じた。指導教員は、Aさんが学生の関わりによって自

分の過去を回想しつつ、新たな目標を見いだせたと学生に伝えて下さったのだと報告してくれた。学生が患者を理解しようと真摯に話を聞くことによって、相手の言動に変化がみられた。これは、その人が望む生活の実現の第一歩として、Aさんが治療を受けるうえで励みややりあいを見つける機会を創出したともいえる。

医療の場は地域に拡大し看護職にはますますその役割が期待されている。看護基礎教育カリキュラムは2022年度改正施行される予定である。時代が求める看護師像を追求しつつ、慈恵の『看護のこころ』をもって看護実践できる看護者を輩出できるよう取り組んでいきたい。引き続き関係各機関の皆様のご指導ご協力をよろしくお願いしたい。



看護婦教育所記念碑

Notice

2018年11月から2019年6月までの慈恵大学の各種情報をお伝えします。

大学公報

行事

- 故 石川 榮世名誉教授を「偲ぶ会」が2018年12月22日(土)午後3時30分より大学1号館講堂にて執り行われた。
- 宇都宮 一典教授、池上 雅博教授の退任記念講義が、2019年1月31日(木)午後3時より大学1号館講堂(3階)において行われた。
- 2018年度第2回学位記授与式が12月17日(月)午後1時30分より、大学1号館講堂において挙行された。
授与された者 大学院修了者 10名
論文提出者 11名
計 21名
- 木村 直史教授の最終講義が、2019年1月19日(土)午後3時より看護学科1階大講堂において行われた。
- 第94回医学科卒業式、第24回看護学科卒業式が次の通り挙行された。
2019年3月2日(土) 医学科卒業生 113名
看護学科卒業生 59名
- 東日本大震災八周年追悼式の当日における弔意が2019年3月11日(月)弔旗を掲揚し、午後2時46分を期して黙とう1分間を実施した。
- 2018年度慈恵第三看護専門学校、並びに慈恵柏看護専門学校合同卒業式が次の通り挙行された。
2019年3月8日(金) 慈恵第三看護専門学校 49名
慈恵柏看護専門学校 75名
- 第9回医学研究科看護学専攻修士課程修了式が2019年3月23日(土)午前10時より大学管理棟4階大講義室において挙行された。
- 2019年度慈恵看護専門学校、慈恵第三看護専門学校、並びに慈恵柏看護専門学校合同入学式が次の通り挙行された。
2019年4月5日(金)午前10時より2号館講堂
- 2019年度入学式が次の通り挙行された。
2019年4月11日(木)午後2時より2号館講堂
医学科 109名 看護学科 60名 修士課程 8名
- 2019年度第1回学位記授与式が4月22日(月)午後2時30分より、大学1号館講堂において挙行された。
授与された者 大学院修了者 11名
論文提出者 16名
計 27名
- 第57回実験動物慰霊祭が6月8日(土)午後3時より、大学1号館講堂(3階)にて執り行われた。

Notice

大学公報

公示

- 2018年11月1日
長谷川 節講師に、客員教授を委嘱する
伊藤 寿啓講師に、准教授を命ずる
築場 広一講師に、准教授を命ずる
田部 宏講師に、准教授を命ずる
松岡 豊氏に、連携大学院教授を命ずる
- 2018年11月3日
柴 孝也客員教授に次の叙勲がありました。
瑞宝小綬章
- 2018年11月24日
東京慈恵会医科大学学長に松藤 千弥教授が選任された。^(※)
- 2018年12月1日
矢内原 臨講師に、准教授を命ずる
砂川 好光氏に、附属柏病院放射線部診療部長(放射線治療担当)を命ずる
- 2018年12月27日
吉田 和彦教授に、葛飾医療センター院長を命ずる^(※)
中村 敬教授に、附属第三病院院長を命ずる^(※)
秋葉 直志教授に、附属柏病院院長を命ずる^(※)
松藤 千弥教授に、大学院医学研究科長兼務を命ずる^(※)
南沢 享教授に、学術情報センター長を命ずる^(※)
大橋 十也教授に、総合医科学研究センター長を命ずる^(※)
福島 統教授に、教育センター長を命ずる^(※)
竹森 重教授に、医学科長を命ずる^(※)
北 素子教授に、看護学科長を命ずる^(※)
岡 尚省教授に、慈恵第三看護専門学校長を命ずる^(※)
忽滑谷 和孝教授に、慈恵柏看護専門学校長を命ずる^(※)
学校法人慈恵大学理事が次のとおり選任されました^(※)
理事長 栗原 敏
理事 松藤 千弥 井田 博幸 吉田 和彦
- 中村 敬 秋葉 直志 丸毛 啓史
柳澤 裕之 浅野 晃司 山本 裕康
高橋 則子 加藤 一人 高橋紀久雄
穎川 一信 谷口 郁夫 前田 新造
谷口 郁夫氏に、専務理事を命ずる^(※)
- 2019年1月1日
附属病院にメモリーセンターを設置する
池田 雅人准教授に、教授を命ずる
齋藤 健講師に、准教授を命ずる
豊田 圭子氏に、准教授を命ずる
桜井 康良氏に、准教授を命ずる
高添 一典講師に、准教授を命ずる
築場 広一氏に、葛飾医療センター皮膚科診療部長を命ずる
林 孝彰氏に、葛飾医療センター眼科診療部長を命ずる
- 2019年1月24日
橋本 和弘教授に、副学長を命ずる^(※)
柳澤 裕之教授に、副学長を命ずる^(※)
大橋 十也教授に、副学長を命ずる^(※)
山本 裕康教授に、附属病院副院長を命ずる^(※)
瀧浪 将典准教授に、附属病院副院長を命ずる^(※)
中野 匡教授に、附属病院副院長を命ずる^(※)
小島 博己教授に、附属病院副院長を命ずる^(※)
安保 雅博教授に、附属病院副院長を命ずる^(※)
小澤 かおり看護部長に、附属病院副院長を命ずる^(※)
児島 章教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる^(※)
根本 昌実教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる^(※)
飯田 誠教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる^(※)
古田 希教授に、附属第三病院副院長を命ずる^(※)
岡本 友好教授に、附属第三病院副院長を命ずる^(※)
芝田 貴裕准教授に、附属第三病院副院長を命ずる^(※)
平本 淳准教授に、附属第三病院副院長を命ずる^(※)

(※)印は、2019年4月1日就任

公示

貞岡 俊一教授に、附属柏病院副院長を命ずる^(※)
 長谷川 譲准教授に、附属柏病院副院長を命ずる^(※)
 吉田 博教授に、附属柏病院副院長を命ずる^(※)
 西脇 嘉一准教授に、附属柏病院副院長を命ずる^(※)

● 2019年2月1日

吉澤 穰治講師に、准教授を命ずる
 芦塚 修一講師に、准教授を命ずる
 (特任期間 2019年2月1日～2021年3月31日)
 茶藪 昌明講師に、准教授を命ずる
 熊谷 吉夫講師に、准教授を命ずる

● 2019年3月1日

山岸 正明氏に、客員教授を委嘱する
 塚田 弘樹氏に、教授を命ずる
 (特任期間 2019年3月1日～2020年3月31日)
 荒川 廣志講師に、准教授を命ずる
 (特任期間 2019年3月1日～2021年3月31日)
 矢萩 裕一講師に、准教授を命ずる
 清水 正樹講師に、准教授を命ずる
 塚田 弘樹氏に、附属柏病院感染制御部診療部長代行を命ずる

● 2019年3月6日

田所清美看護補助員(附属柏病院看護部)は、医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣より表彰された。

● 2019年3月31日

大学 総合医科学研究センター薬物治療学研究部は組織を解消する
 大学 総合医科学研究センター分子免疫学研究部は組織を解消する

● 2019年4月1日

大学 臨床薬理学講座を設置する
 大学 総合医科学研究センター分子遺伝学研究部を設置する
 大学 基盤研究施設(分子遺伝学)と基盤研究

施設(分子細胞生物学)は統合し、基盤研究施設に改組する
 寄附講座 環境アレルギー学講座を設置する
 法人事務局総務部秘書課は、法人事務局秘書課に再編する
 法人事務局経営企画部企画課を設置する
 法人事務局総務部システム課は、法人事務局経営企画部に編入する
 法人事務局総務部広報課は、法人事務局経営企画部に編入する

附属病院に手外科センターを設置する
 附属病院にてんかんセンターを設置する
 辻 守哉講師に、客員教授を委嘱する
 石橋 健一講師に、客員教授を委嘱する
 相澤 孝夫氏に、客員教授を委嘱する
 小曾根 基裕准教授に、客員教授を委嘱する
 西村 理明教授に、内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科担当教授を命ずる

宇都宮 一典氏に、臨床専任教授を命ずる
 (任命期間 2019年4月1日～2022年3月31日)

池上 雅博氏に、臨床専任教授を命ずる
 (任命期間 2019年4月1日～2022年3月31日)

關根 広氏に、臨床専任教授を命ずる
 (任命期間 2019年4月1日～2022年3月31日)

黒田 徹氏に、臨床専任教授を命ずる
 (任命期間 2019年4月1日～2022年3月31日)

志賀 剛氏に、教授を命ずる
 加藤 陽子准教授に、教授を命ずる
 川目 裕講師に、教授を命ずる
 小井戸 薫雄准教授に、教授を命ずる

布村 明彦准教授に、教授を命ずる
 近藤 一郎准教授に、教授を命ずる
 Alan M. Hauk氏に、教授を命ずる
 大槻 穰治准教授に、教授を命ずる
 (特任期間 2019年4月1日～2022年3月31日)

長谷川 譲准教授に、教授を命ずる
 (特任期間 2019年4月1日～2021年3月31日)

品川 俊一郎講師に、准教授を命ずる
 佐藤 智彦氏に、准教授を命ずる
 井上 祐紀氏に、准教授を命ずる

公示

岸 裕司氏に、准教授を命ずる
 虻川 有香子講師に、准教授を命ずる
 有廣 誠二講師に、准教授を命ずる
 辰野 聡氏に、准教授を命ずる
 西川 勝則講師に、准教授を命ずる
 後藤 恭子講師に、准教授を命ずる
 倉田 二郎氏に、准教授を命ずる
 香取 信之氏に、准教授を命ずる
 (特任期間 2019年4月1日～2022年3月31日)

小池 和彦講師に、准教授を命ずる
 (特任期間 2019年4月1日～2022年3月31日)

深井 喜代子看護学科講師に、看護学科教授を命ずる
 (特任期間 2019年4月1日～2020年3月31日)

櫻井 尚子氏に、大学院医学研究科看護学専攻教授を命ずる
 (特任期間 2019年4月1日～2020年3月31日)

中村 美鈴看護学科教授に、大学院医学研究科看護学専攻長を命ずる

敷島 敬悟教授に、臨床研究支援センター長を命ずる

桑野 和善氏に、附属4 病院内科総括責任者を命ずる

宮田 市郎氏に、附属4 病院小児科総括責任者を命ずる

宮田 市郎氏に、附属病院小児科診療部長を命ずる

川目 裕氏に、附属病院遺伝診療部診療部長を命ずる

宇都宮 一典氏に、総合健診・予防医学センター長を命ずる

横山 啓太郎氏に、附属病院晴海トリートメントクリニック診療部長を命ずる

辰野 聡氏に、葛飾医療センター画像診断部診療部長を命ずる

行木 太郎氏に、葛飾医療センター救急部診療部長を命ずる

山田 恭輔氏に、附属第三病院産婦人科診療部長を命ずる

加畑 好章氏に、附属第三病院眼科診療部長を命ずる

加藤 陽子氏に、附属第三病院輸血部診療部長を命ずる

豊田 圭子氏に、附属第三病院放射線部診療部長を命ずる

大谷 圭氏に、附属第三病院救急部診療部長を命ずる

池田 雅人氏に、附属柏病院腎臓・高血圧内科診療部長を命ずる

小此木 英男氏に、附属病院総合診療部診療部長代行を命ずる

丹野 有道氏に、葛飾医療センター腎臓・高血圧内科診療部長代行を命ずる

加地 正伸氏に、客員教授を委嘱する

本間 定氏に、客員教授を委嘱する

鈴木 直樹氏に、客員教授を委嘱する

佐々木 敬氏に、客員教授を委嘱する

鈴木 正章氏に、客員教授を委嘱する

大野 岩男氏に、客員教授を委嘱する

磯西 成治氏に、客員教授を委嘱する

落合 和徳氏に、客員教授を委嘱する

景山 茂氏に、客員教授を委嘱する

清水 光行氏に、客員教授を委嘱する

平本 淳氏に、附属4 病院総合診療部総括責任者を命ずる

西村 理明氏に、附属病院糖尿病・代謝・内分泌内科診療部長を命ずる

廣岡 信一氏に、附属柏病院病院病理部診療部長代行を命ずる

● 2019年5月1日

小森 学氏に、附属第三病院耳鼻咽喉科診療部長を命ずる

大学公報

学事

● 大学院修了者

2018.12.26	安藤 精貴	徳竹 賢一
2019.1.23	吉原 有希	
2019.2.23	林 哲朗	
2019.2.27	木村 悠	神崎 剛
	谷川 真一	池村 絢子
2019.3.13	栗田 美紀	勝俣 陽貴
	宮沢 祐太	田尻 進
	齋藤 那由多	
2019.3.27	増田 隆洋	
2019.4.10	野口 幸子	奥井 紀光
	保科 宙生	
2019.4.24	米本 圭吾	
2019.5.22	菱木 光太郎	

● 学位論文通過者

2018.12.12	山本 洋平	
2018.12.26	道躰 隆行	平田 佑子
	川田 典靖	西尾 信一郎
2019.1.9	道本 顕吉	
2019.1.23	山本 世怜	柴 綾子
2019.2.13	阿部 恭平	
2019.2.27	秋元 俊亮	永田 拓也
	西村 礼司	岸 慶太
2019.3.13	鈴木 佳世	木戸 尊將
	小松 鉄平	
2019.3.27	宇野 耕平	青木 宏明
	永野 智久	
2019.4.10	佐藤 峻	
2019.4.24	白壁 和彦	小池 裕人

訃報

- ▶ 赤松 功也山梨医科大学名誉教授(昭和33年 本学卒)は、10月11日逝去されました。
- ▶ 鎌田 芳夫評議員・同窓会副会長(昭和52年 本学卒)は、11月2日逝去されました。
- ▶ 有廣 忠雅客員教授(産婦人科学講座)は、11月29日逝去されました。
- ▶ 同窓会福島支部長 乾 裕昭先生(昭和51年 本学卒)は、1月12日逝去されました。
- ▶ 鈴木 博昭客員教授(内視鏡医学講座)は、3月2日逝去されました。

東京慈恵会公報

● 教職員人事

2019年4月1日	昇級	7等級・事務員	塩原 邦昭	6等級・事務員
		5等級・看護教員	大滝 佐織	4等級・看護教員
		5等級・看護教員	徳永 久美子	4等級・看護教員
		4等級・看護教員	小林 奈知	3等級・看護教員
	任免	7等級事務長・事務員	塩原 邦昭	6等級主任・事務員
	転入	2等級・事務員	伊地知 美香	附属病院 業務課
	転出	7等級・看護教員	中尾 みさ子	慈恵柏看護専門学校
		7等級・事務員	澤本 裕之	施設課
	新任	4等級・看護教員	須賀 亜衣	
	新任	3等級・看護教員	千葉早希子	
	新任	2等級・事務員	森田 美和子	

大学公報

東京慈恵会公報

● 行 事

2018年11月13日(火)	公益社団法人東京慈恵会理事会が開催された。
2018年12月1日(土)	慈恵看護専門学校戴帽式が挙行された。 1年生(69期生) 108名
2019年3月8日(金)	慈恵看護専門学校卒業式が挙行された。 卒業生85名
2019年3月19日(火)	東京慈恵会理事会、評議員会、総会が開催された。
2019年4月5日(金)	慈恵看護専門学校入学式が挙行された。 入学生(70期生) 98名

補助金・助成金

令和元年度科学研究費助成事業 申請・採択状況一覧

種目	新規申請件数	採択件数		
		新規内定件数	継続内定件数	内定件数合計
新学術領域研究	11	2	0	2
基盤研究 (A)	1	0	2	2
基盤研究 (B)	20	5	7	12
基盤研究 (C)	128	31	69	100
挑戦的研究 (萌芽)	33	—	5	5
若手研究 (A)	—	—	1	1
若手研究 (B)	—	—	9	9
若手研究	75	25	23	48
研究活動スタート支援	3	—	3	3
特別研究員奨励費	0	—	2	2
国際共同研究強化	—	—	1	1
国際共同研究強化 (A)	—	—	1	1
奨励研究	1	1	0	1
合計	272	64	123	187

注) ①内定件数は平成31年4月1日時点。4月1日時点の転出者は含まれているが、4月1日付転入者は除く。
 ②「研究活動スタート支援」「特別研究員奨励費」「挑戦的研究(開拓)」「挑戦的研究(萌芽)」「国際共同研究強化」の一部データは、応募時期・内定時期が異なるため除く。
 ③延長(基金)、学外分担者を除く。

私立大学研究ブランディング事業タイプA(社会展開型)(事業期間5年)

採択年度	氏名(所属・職名)	研究プロジェクト
平成29年度	安保雅博 (リハビリテーション医学講座・教授)	働く人の疲労とストレスに対するレジリエンスを強化する Evidence-based Methods の開発

財務報告

平成30年度決算

1、はじめに

平成30年度は、既存建物並びに医療機器等の経常的な修繕と更新に加えて、西新橋キャンパス再整備に必要な資金を賄える決算を目指して運営されましたが、良好な医療収入の伸びと各機関の経営効率化努力により、基本金組入前当年度収支差額(利益)は予算を上回る結果となりました。

2、資金収支計算書

施設・設備関係支出は115億円でした。内容は、建設仮勘定(新外来棟建設資金支払いが主)80億円、医療器械16億円、教具(システム投資)8億円、建物8億円でした。

施設・設備関係支出は大きかったものの、次年度繰越金は565億円と前年度末比で79億円増加しました。

これは支払資金として有価証券を83億円売却した為で、現金・預金・有価証券の合計残高は816億円となり前年度末比12億円減少しました。

3、事業活動収支計算書

収入の部は、医療収入の増加等により予算を14億円上回る1,076億円となりました。

支出の部は、1,030億円で予算を12億円上回りましたが、要因は医療経費が予算を12億円上回った為です。この結果、基本金組入前当年度収支差額(利益)は46億円となり、予算を達成することができました。

4、貸借対照表

純資産の部の増加46億円は当年度の利益です。この利益の内23億円は借入金と長期未払金(リース、割賦の支払)の外部負債の返済に充当されましたが、未払金の増加等があり負債の部・純資産の部の合計では39億円の資金余剰が生まれました。

財務報告

固定資産の部では、北棟の竣工や新外来棟の建設資金支払いにより、建物と建設仮勘定は増加しましたが、有価証券の減少により全体では42億円の資金余剰が生まれました。

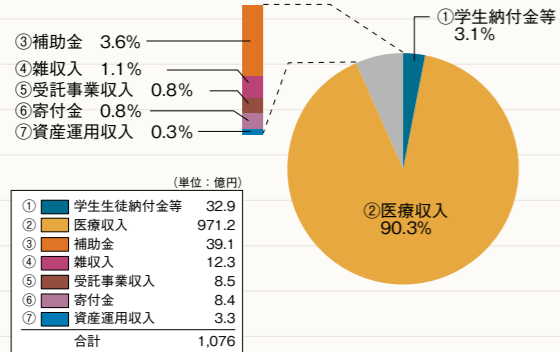
負債の部・純資産の部・固定資産の部で生じた資金余剰合計81億円の内、79億円は現金・預金として次年度に繰越されました。

純資産の部の合計は1,518億円で、自己資金比率は70.3%となりました。

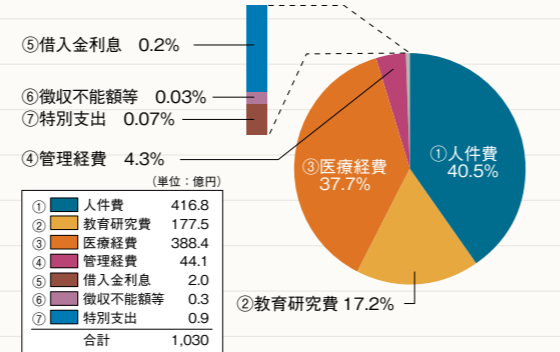
5、決算開示方法について

平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。

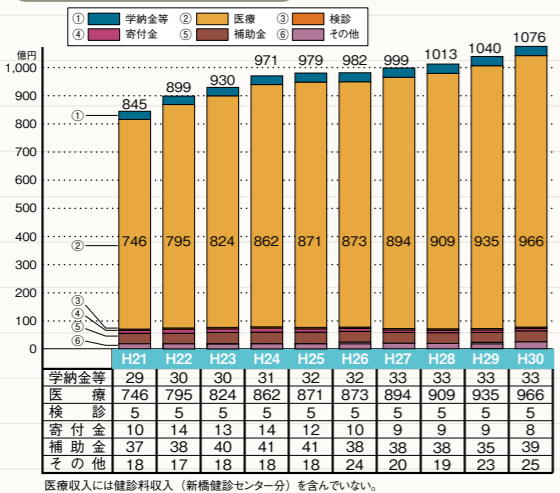
平成30年度事業活動収入の構成



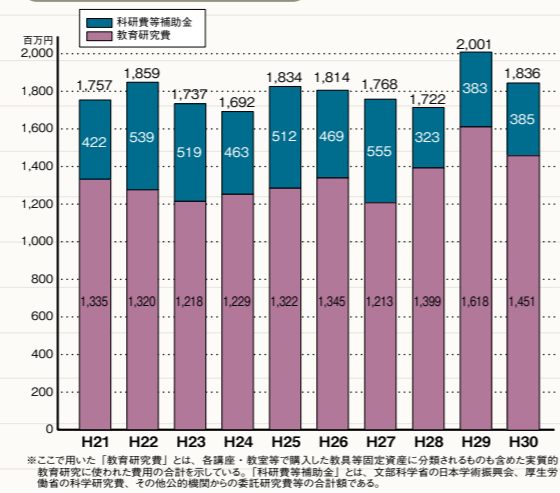
平成30年度事業活動支出の構成



事業活動収入の推移 (H21~H30)



教育研究費の推移 (H21~H30)



平成30年度資金収支計算書

Table of the Statement of Financial Position for Heisei 30, showing assets, liabilities, and net assets with detailed sub-categories and amounts.

平成30年度貸借対照表

Table of the Balance Sheet for Heisei 30, detailing fixed assets, current assets, liabilities, and net assets.

平成30年度事業活動収支計算書

Table of the Statement of Income for Heisei 30, detailing business activity income and expenses, and the resulting profit.

平成30年度貸借対照表

Table of the Balance Sheet for Heisei 30, detailing fixed assets, current assets, liabilities, and net assets.

財務報告

2019年度予算について

1. 予算編成方針

2019年度の予算編成方針は以下としました。

- ① 既存の債務返済と2019年度に予定される西新橋キャンパス再整備を含めた設備投資計画を、遅滞なく遂行できる予算とする。
- ② 当年度収支差額(利益)目標を24.4億円以上とする。2018年度決算の当年度収支差額実績46.1億円と比べると▲21.7億円(▲47%)の大幅減益予算となりますが、要因は2019年1月にN棟並びに新外来棟が稼働する為です。この為の経費が大きく増加する一方で、これに対応する医療収入の大幅増加は2019年度中には見込めないことから減益予算となりました。

2. 2019年度予算概要

(1) 事業活動収支計算書

- 当年度収支差額予算は、予算編成方針で目標とした24.4億円を僅かながら上回る、24.5億円の予算を編成することができました。
- 事業活動収入計は、2018年度予算比+32億円(前年度予算比+3.0%)の1,094億円。この内、医療収入が同比+25億円(同比+2.6%)の992億円と大きく伸びる予算です。
- 支出合計は予算編成方針で示した通り2018年度予算比+51億円(同比+5.0%)の1,069億円と大きく増加する計画です。主な増加要因は、医療

経費(同比+21億円)、人件費(同比+10億円)、教育研究経費(同比+18億円)です。

(2) 資金収支計算書

- ① 設備投資
 - 施設関係支出・設備関係支出金額は263億円(2018年度予算比+132億円)と大幅に増加する見込です。
 - 主な要因は、新外来棟の医療器械投資を主とする教育研究用機器備品支出139億円(同比+101億円)と、新外来棟の建築費を主とする建設仮勘定支出99億円(同比+20億円)です。
- ② 資金繰り
 - 上述の通り施設関係支出・設備関係支出金額が263億円(2018年度予算比+132.0億円)と大幅に増加すること、これに加え病院稼働に伴う人件費支出の増加(同比+8億円)、更に消耗品費支出・委託費支出・修繕費支出の増加(同比+13億円)等、大幅な支出の増加が見込まれます。
 - これらの支出増加には、預金の取崩しと長期借入金30億円に対応する計画ですが、本予算通り進めば、2019年度末の現金預金残高は364億円、また有価証券残高は250億円が見込まれます。これにより西新橋再整備計画に続く第三病院建設計画に必要な資金は確保できる見込です。

財務報告

2019年度資金収支予算書 (単位:千円)

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

支出の部				収入の部			
科目	平成30年度	平成31年度	対前年比較	科目	平成30年度	平成31年度	対前年比較
人件費支出	41,662,383	42,509,588	847,205	学生生徒納付金収入	3,158,160	3,127,270	▲30,890
教育研究経費支出	49,076,480	52,365,435	3,288,955	手数料収入	155,161	151,028	▲4,133
教育研究費支出	13,139,074	14,475,572	1,336,498	寄付金収入	831,288	794,475	▲36,813
医療経費支出	35,937,406	37,889,863	1,952,457	補助金収入	3,429,819	4,013,285	583,466
管理経費支出	3,845,125	4,035,675	190,550	国庫補助金	3,158,437	3,724,716	566,279
				地方公共団体補助金	268,382	284,769	16,387
				その他の補助金	3,000	3,800	800
				事業収入	97,434,700	99,993,045	2,558,345
借入金等支払利息支出	204,911	199,127	▲5,784	医療収入	96,688,166	99,234,288	2,546,122
				受託事業収入	746,534	758,757	12,223
借入金等返済支出	3,894,610	7,602,610	3,708,000	受取利息・配当金収入	292,006	249,651	▲42,355
施設関係支出	9,107,291	11,604,395	2,497,104	雑収入	915,219	1,054,401	139,182
設備関係支出	3,982,506	14,686,005	10,703,499	借入金等収入	1,900,000	4,900,000	3,000,000
資産運用支出	1,000,000	0	▲1,000,000	前受金収入	647,691	601,644	▲46,047
その他支出	16,662,563	17,529,852	867,289	その他の収入	16,345,348	17,334,439	989,091
【予備費】	700,000	700,000	0				
資金支出調整勘定 期末未払金	▲16,062,821	▲19,956,458	▲3,893,637	資金収入調整勘定	▲15,030,317	▲16,603,867	▲1,573,550
次年度繰越支払資金	40,818,014	36,448,242	▲4,369,772	期末未収入金	▲14,382,626	▲16,002,223	▲1,619,597
支出の部合計	154,891,063	167,724,471	12,833,408	前期末前受金	▲647,691	▲601,644	46,047
				前年度繰越支払資金	44,811,988	52,109,100	7,297,112
				収入の部合計	154,891,063	167,724,471	12,833,408

2019年度事業活動収支予算書 (単位:千円)

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

支出の部				収入の部			
科目	平成30年度	平成31年度	対前年比較	科目	平成30年度	平成31年度	対前年比較
教育活動支出				教育活動収入			
人件費	41,818,538	42,774,527	955,989	学生生徒納付金	3,158,160	3,127,270	▲30,890
教育研究経費	55,139,410	59,066,409	3,926,999	手数料	155,161	151,028	▲4,133
教育研究経費	17,506,061	19,300,553	1,794,492	寄付金	751,288	724,475	▲26,813
医療経費	37,633,349	39,765,856	2,132,507	経常費等補助金	3,429,819	3,852,717	422,898
管理経費	4,557,644	4,789,636	231,992	付随事業収入	97,434,700	99,993,045	2,558,345
				医療収入	96,688,166	99,234,288	2,546,122
徴収不能額等	30,000	32,000	2,000	受託事業収入	746,534	758,757	12,223
教育活動支出計	101,545,592	106,662,572	5,116,980	雑収入	915,219	1,054,401	139,182
				教育活動収入計	105,844,347	108,902,936	3,058,589
教育活動外支出				教育活動収支差額	4,298,755	2,240,364	▲2,058,391
借入金等利息	204,911	199,127	▲5,784				
教育活動外支出計	204,911	199,127	▲5,784	教育活動外収入			
教育活動外収支差額	87,095	50,524	▲36,571	その他の受取利息・配当金	292,006	249,651	▲42,355
				教育活動外収入計	292,006	249,651	▲42,355
				教育活動外収支差額	87,095	50,524	▲36,571
				経常収支差額	4,385,850	2,290,888	▲2,094,962
特別支出							
資産処分差額	70,000	70,000	0	特別収入			
その他の特別支出	0	0	0	資産売却差額	0	0	0
特別支出計	70,000	70,000	0	その他の特別収入	80,000	230,568	150,568
				施設設備寄付金	80,000	70,000	▲10,000
				施設設備補助金	0	160,568	160,568
				特別収入計	80,000	230,568	150,568
				特別収支差額	10,000	160,568	150,568
基本金組入前当年度収支差額	4,395,850	2,451,456	▲1,944,394	基本金組入額合計	▲3,652,783	▲14,274,496	▲10,621,713
				当年度収支差額	743,067	▲11,823,040	▲12,566,107
				前年度繰越収支差額	▲21,906,840	▲30,162,655	▲8,255,815
				基本金取崩額	0	0	0
				翌年度繰越収支差額	▲21,163,773	▲41,985,695	▲20,821,922

(参考)

事業活動支出計	101,820,503	106,931,699	5,111,196	事業活動収入計	106,216,353	109,383,155	3,166,802
---------	-------------	-------------	-----------	---------	-------------	-------------	-----------

Notice

生涯学習・公開セミナー等

慈恵医大生涯学習センター

慈恵医大 生涯学習セミナー
月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付します。

月例セミナー
●開催日時 第2土曜日(2月、4月、6月、11月) 16:00~18:00
●場所 附属病院(本院) 中央棟8階会議室

第252回
●開催日時 2019年11月9日(土) 16:00~17:00
●テーマ バーキンソン病の“気づき”から診断・治療まで
●演者 神経内科 大本 周作 講師

第253回
●開催日時 2019年11月9日(土) 17:00~18:00
●テーマ 高齢者に最適な心臓手術とは?
●演者 心臓外科 國原 孝 教授

第253回
●開催日時 2020年2月8日(土) 16:00~17:00
●テーマ 貧血の診かた
●演者 腫瘍・血液内科 島田 貴 教授

第253回
●開催日時 2020年2月8日(土) 17:00~18:00
●テーマ 肝臓病検査の現在と未来
●演者 臨床検査医学 政木 隆博 講師

第40回慈恵医大夏季セミナー
東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム
●開催日時 2019年8月1日(木) 19:00~21:30
●場所 東京慈恵会医科大学 大学1号館講堂(3階)

●テーマ AI時代の内視鏡診断治療
●演者 内視鏡医学講座 診療部長 炭山 和毅 教授
●テーマ 大腸癌手術~安全性と術後のQOL向上を目指して~
●演者 外科学講座下部消化管外科 診療部長 衛藤 謙 准教授

診療科紹介ブース(講演会終了後)
●場所 東京慈恵医科大学 2号館講堂
内視鏡科・外科・新橋健診センター・患者支援・医療連携センター
(主催) 東京慈恵会医科大学生涯学習センター
東京慈恵会医科大学附属病院患者支援・医療連携センター
(共催) 慈恵医大同窓会・慈恵医師会
私立大学研究ブランディング事業
(企画) 生涯学習委員会

●お問合せ先:生涯学習センター
TEL : 03-3433-1111 (大代表)内線2634

附属病院(本院)

2019年度 みんなの健康教室
そこが知りたい! 気になる痛み
(共催: NHK 放送博物館・東京慈恵会医科大学)
●開催時間 14:00~15:15(開場13:30)
●場所 NHK放送博物館 8Kシアター

第3回
●開催日時 2019年9月21日(土)
●テーマ 膝の痛みの原因と治療の実際 ~80歳、90歳でも元気に歩くために~
●演者 整形外科 斎藤 充 (准教授/診療部長)

第4回
●開催日時 2019年11月2日(土)
●テーマ やはり、気になる頭痛 ~付き合うことも、恐れることも~
●演者 神経内科 村上 秀友 (准教授/診療部長)

第5回
●開催日時 2020年1月11日(土)
●テーマ その痛み、放っておいて大丈夫? 胸背・咽喉・心窩部痛
●演者 循環器内科 南井 孝介 (講師/診療部長)

第6回
●開催日時 2020年3月14日(土)
●テーマ ベイクリニクの疾患と最先端治療
●演者 ベイクリニク 北村 俊平 (助教/診療部長)

第7回
●開催日時 2020年3月14日(土)
●テーマ 自宅で行える腰痛予防
●演者 リハビリテーション科 岡道 綾 (理学療法士)

第8回
●開催日時 2020年3月14日(土)
●テーマ ベイクリニクの疾患と最先端治療
●演者 ベイクリニク 北村 俊平 (助教/診療部長)

第9回
●開催日時 2020年3月14日(土)
●テーマ 自宅で行える腰痛予防
●演者 リハビリテーション科 岡道 綾 (理学療法士)

●お問合せ先:患者支援・医療連携センター 医療連携室
TEL:03-5400-1202(直通)

市民公開講座
●開催日時 2019年8月10日(土) 13:30~15:00
●場所 南講堂
●テーマ 心臓蘇生PUSHコース

東京慈恵会医科大学

地域連携看護学実践研究センター主催
市民公開講座【国領キャンパス】
●企画テーマ 包括的フレイル予防 ~衰えへの気づきを元気のヒケツに~

●開催日時 2019年9月21日(土) 14:00~16:00
●場所 看護学科校舎1階大講堂
●演者 飯島 勝矢 先生 (東京大学高齢社会総合研究機構教授・1990年本学卒)

第1回
●開催日時 2019年9月21日(土) 14:00~16:00
●テーマ なぜ老いる?ならば上手に老いるの? ~フレイル予防を通じた健康長寿のまちづくり~

第2回
●開催日時 2019年10月5日(土) 14:00~16:00
●テーマ わが国日本: どうなる?何が課題なの? ~自分のやるべきことと地域のやるべきこと~

●お問合せ先:看護学科 学事課
TEL : 03-3430-8686(自動オペレーター)内線2770

葛飾医療センター
●開催日時 14:00~15:30
●場所 葛飾医療センター 5階講堂

第53回
●開催日時 2019年9月14日(土)
●テーマ もっと知って欲しい「肺がん」のこと 肺がんにならないために、肺がんになったら
●演者 呼吸器内科 吉田 和史 (助教/診療部長) がん化学療法看護認定看護師 寺嶋 友美

第54回
●開催日時 2020年2月8日(土)
●テーマ 未定
●演者 未定

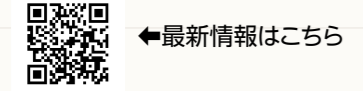
●お問合せ先:管理課
TEL : 03-3603-2111 (大代表)内線5911

第三病院
●開催日時 2019年11月30日(土) 14:00~15:30
●場所 看護学科1階 大講堂
●テーマ 大規模災害に備える
●演者 救急部 診療部長 大谷 圭 准教授

●お問合せ先:管理課
TEL : 03-3480-1151 (大代表)内線3711

柏病院
●開催日時 2019年9月21日(土) 14:00~16:00
●場所 慈恵柏看護専門学校講堂
●テーマ 肝臓がんのお話

●お問合せ先:業務課
TEL : 04-7164-1111 (大代表)内線2152



←最新情報はこちら

Notice

寄付のお願い

創立百三十年記念事業募金の御礼

平成22年10月に開始いたしました創立百三十年記念事業募金が、平成30年9月30日で終了しました。学祖の建学の精神を礎とした本学の将来計画にご賛同賜り、これまで関係各方面から合計で約18億円(目標20億円比約90%)ものご支援をいただきました。ご協力下さいました方々の心温まるご芳志に対して心から厚くお礼申し上げます。

さて今回の募金は、開設以来50年を超え老朽化が進んだ本院外来棟の改築を主目的として開始されました。中央棟に隣接する外来棟を建て、患者さんの利便性を図るとともに、東京都から借用した隣地を活用して、病院と大学の建物を整理し、機能的なキャンパスに整備する建築計画(西新橋キャンパス再整備計画)を進めてまいりました。

平成28年2月の着工以来、本計画は順調に進捗しています。平成29年6月には港工業高校跡地に2号館が竣工しました。これに隣接する北棟は平成30年11月に竣工しました。新外来棟(仮称)の建築も令和2年1月の開院に向け、計画通り順調に進んでいます。西新橋キャンパス再整備に続いて、老朽化した第三病院の建て替えと国領キャンパスの再整備を進める計画です。

これらの基盤整備には莫大な資金が必要となります。大学も自助努力を重ねておりますが、資金の調達には限界があります。創立百三十年記念事業募金は終了しましたが、引き続き関係各位の全面的なご協力を心よりお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

創立百三十年記念事業募金寄付者名簿

- 同窓生
 - 磯西 成治
 - 小田切 理純
 - 斉藤 道顕
 - 原 正忠
 - 久富 潮
 - 堀内 博人
 - 御手洗 俊三
 - 横山 彰夫
- 同窓会支部会・クラス会
 - 慈恵医大48クラス会
 - 昭和58年卒業生一同
 - 第四内科同門会
 - 東京慈恵会医科大学同窓会 静岡県支部
 - 平成11年卒業生一同
- 父兄
 - 神足 吉明
 - 高橋 裕
 - 馬場 安盛
- 企業
 - アステラス製薬(株)
 - (医) 恵芳会松脇クリニック品川
 - (医) 翔仁会
 - (医) みひらクリニック
 - エスアールエル(株)(☆)
 - 三協立山(株)
 - 慈恵ファシリテイサービス(株)(☆)
 - 慈恵メディカルサービス(株)(☆)
 - 中外製薬(株)
 - 日本化薬(株)
 - 松岡塗料(株)(☆)
- 一般個人
 - 市川 雅康
 - 伊藤 博(☆)
 - 大鷲 美喜
 - 大鷲 美結
 - 大鷲 祐貴
 - 堅山 壽子(☆)
 - 唐澤 誠章
- 教職員
 - 川久保 孝
 - 島本 友希子
 - 栗原 敏

・平成30年11月1日~令和元年5月31日までに頂いたご寄付 ・ご芳名は敬称を省略し、五十音順に掲載しました。
・お名前の後ろの☆印は旧募集期間の募金に加えて、期間延長後にも一定金額以上の募金をしていただいた方です。

ガバナンス

学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、大学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に

貢献します。

5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、大学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

学校法人 慈恵大学 行動規範

(目的)

第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待・贈答の禁止)

第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の受け取りを禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。

2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則

1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

医療連携窓口のご紹介

本学附属病院では、紹介・逆紹介など循環型地域完結型医療を推進し、地域の先生方との密なる医療連携を目指します。
患者さんをご紹介頂く際は、各病院の担当窓口までご連絡をお願い致します。



附属病院(本院)

患者支援・医療連携センター 医療連携室



〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18
TEL 03-3433-1111(代表) 内線5099
FAX 03-5401-1879(直通)



葛飾医療センター

入退院・医療連携センター 医療連携室



〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2
TEL 03-3603-2111(代表)内線5145
FAX 03-3690-7474



第三病院

総合医療支援センター 医療連携室



〒201-8601 東京都柏市和泉本町4-11-1
TEL 03-3480-1151(代表)内線3804、3830
FAX 03-3430-3611



柏病院

患者支援センター 医療連携部門



〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1
TEL 04-7164-1111(代表)内線2158
FAX 04-7164-1197



樋口一成

(1904～1975年)



勲一等瑞宝章を授与された
樋口一成学長(理事長)

学祖 高木兼寛の長女を母に持つ樋口一成は、学生時代には極東オリンピックの水泳選手として参加したこともあるスポーツマンで、押し出しの強い風貌からもわかるとおり、何事にも闘志をもってあたる熱血漢だったという。異例の若さで学長、理事長に就任し、その就任式では「私自身のもてる力の全てを捧げる覚悟で、この職を全うする」と述べるとともに、理事長としては「病院の増改築を早急に行うこと、悪しき慣例になりつつある大学の財政と運営を完全に三元化する」と、さらには進学課程を設置することを成し遂げていきました。と夢の実現に向けて、全学一致の必要性を訴えた。不安定な財政を急ピッチで立て直すためにも、病院の増改築に早急に取り組むことを決意した樋口は、その実現に向けて理事会で案をまとめた。その案は、大学評議会会で承認された後、大学一丸となって推進されることとなる。建築予算のうち、銀行からの借り入れ以外の三億円については学債を募集することにして、樋口自ら同窓会会長の職にまで就任して積極的な参加を呼びかける。そして昭和三十六年(一九六〇)には、目標額の三億円を突破した。樋口はまさに有言実行の人であった。

編集後記

高齢化社会が進み、予防医療への関心が高まる中で、地域における医療連携の重要性はますます高まっています。本学では今年3月に、看護学科が中心となって地域連携看護学実践教育(JANP)センターを設立しました。

今回の特集では、このJANPセンターについて座談会形式で取り上げました。JANPセンターの活動は、これまで病院内に限定されがちだった看護という機能を、地域への貢献という視点から実践し、学部生や大学院生の教育にも反映させていくという、全国でも先進的な取り組みです。

看護学科のある国領キャンパスは、東京慈恵会医科大学附属第三病院とも隣接しており、今後密接な連携をとっていくことも期待されています。まさに、医療と看護を両輪として捉えた学祖・高木兼寛の理念を実現するものでもあります。

本誌では本学に関係する皆さんと価値観と方向性を共有することを目的に、これからも変わりつつある本学の姿をお伝えしていきます。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧いただき、ご意見や感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

大学広報委員会委員長 穎川 晋

発行 学校法人 慈恵大学
 発行人 理事長 栗原 敏
 連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
 学校法人 慈恵大学 広報課
 TEL 03-3433-1111(大代表)
 FAX 03-5400-1281
 e-mail koho@jikei.ac.jp
 号数 第33号
 発行日 2019年8月1日

<http://www.jikei.ac.jp/>